

医療法人社団 恩和会
旭川高砂台病院 年報

[平成21年度]

目次

1	巻頭言	P. 0 1
2	病院基本理念	P. 0 2
3	病院基本方針	P. 0 2
4	看護部基本理念	P. 0 2
5	看護部基本方針	P. 0 2
6	職業倫理規定	P. 0 3
7	臨床倫理規定	P. 0 3
8	患者の権利章典	P. 0 4
9	診療録等の開示指針	P. 0 5
1 0	病院概要	P. 0 6
1 1	組織図	P. 0 8
1 2	沿革	P. 0 9
1 3	事務長挨拶	P. 1 3
1 4	師長挨拶	P. 1 4
1 5	一年間を振り返って	
	a 医局	P. 1 5
	b 2階病棟	P. 1 6
	c 3階・C棟病棟	P. 1 7
	d 4階病棟	P. 1 8
	e 透析室	P. 1 9
	f 中央材料室・手術室	P. 1 9
	g 医療機器安全管理室	P. 2 1
	h 外来	P. 2 1
	i 眼科	P. 2 2
	j 歯科・口腔外科	P. 2 3
	k 薬局	P. 2 4
	l 放射線科	P. 2 5
	m 検査室	P. 2 6
	n リハビリテーション科	P. 2 6
	o デイケアセンター	P. 2 7
	p 医事課	P. 2 8
	q 医療福祉相談室	P. 2 9
	r 栄養課	P. 3 0
1 6	新入職員の声	P. 3 1

17	患者の状況	P. 33
18	本年度の目標と評価	P. 34
19	各委員会活動報告と問題点	
	a 安全（事故防止）対策委員会	P. 35
	b 感染防止対策委員会	P. 36
	c 褥瘡対策委員会	P. 37
	d 身体拘束廃止検討委員会	P. 38
	e 医療ガス安全管理委員会	P. 39
	f 施設設備防災委員会	P. 39
	g 労働安全管理委員会	P. 40
	h 情報管理委員会	P. 41
	i 広報委員会	P. 41
	j サービス推進委員会	P. 42
	k 記録監査委員会	P. 43
	l 教育委員会	P. 43
20	研究発表会報告	P. 48
21	合同カンファレンス報告	P. 48
22	家族会の一年	P. 50
23	手術件数と内訳	P. 52
24	死亡者統計と死因分析	P. 53
25	ヒヤリハット・事故報告分析	P. 54
26	八宝祭報告と問題点	P. 55
27	自己ステップアップ成果者報告	P. 57
28	入職者・退職者 一覧	P. 57
29	サプライヤー 一覧	P. 58
30	職員 随想	P. 59
31	社会の出来事	P. 64
32	編集後記	P. 65

巻頭言

待望久しかった本格的政権交代が実現しました。

友愛精神を全面に出し、コンクリートより人へのスローガンの政権がスタートしました。

何より、前政権の「医療は経済成長の足を引っ張るお荷物」という考えから、医療・介護・福祉を成長産業と位置付けた辺りに期待が持てそうな政権です。



実際ほんの僅かですが、新年度からは医療費が上がりました。 **院長 恩田 芳和**

これまで続いた医療費の削減の結果として（必ずしも医療費の削減のせいばかりではないが）体力の落ちた病院の不採算部門（産科など）の閉鎖、医師不足を理由とした病院自体の閉鎖、縮小、それらの結果として医療を受ける機会の消失や減少、救急患者のたらい回しなど、一言で言えば、医療崩壊の前に一般住民の悲鳴がやっと政府に届いた思いです。

国の財政が非常に苦しい事が喧伝されておりますが、なんと云っても人は健康が一番です。

現在、そして将来の健康の不安、自分や家族が病気に成った時、介護が必要に成った時に不安があるようでは、人は十分な働きが出来ません。ましてや少子高齢化の下、経済成長も国の発展も望めません。

医療・介護に十分な財源を確保して、経済成長、国力増強の基として欲しいものです。

医療・介護従事者の待遇改善は失業対策、内需拡大そして国の税収確保にも大いに寄与すると共に、国民が存分に働くための安心感を与える第一のものだと考えます。

但し、悪かろうの医療・介護は受け入れられるはずはなく、われわれ医療・介護従事者は努力の怠りのないように不断の自己研鑽を続けていきたいものです。

その点で当院の職員は、日頃から自己啓発に心がけているので今後の成長も大いに期待できるものです。

その一端として、多忙な日々の勤務の傍ら成し遂げた研究の成果を見て頂きたいものです。

病院基本理念

- ・ 地域医療の担い手として、
良質な医療と安全と安心の介護を提供する
- ・ 職員が常に自己研鑽する場とする

病院基本方針

- ・ 顧客（患者・家族）満足度の向上とそれによる、増患

看護部 基本理念

- 1人1人の患者様に、安全 快適な環境を提供し、
個々のニーズに合わせた看護・介護サービスを提供する。
- また、それぞれの職員が与えられた責任を充分把握し、
それぞれの役割の中で学習し、自己の向上に努め、
根拠のある行動を取れるように自己啓発に努める。

看護部 基本方針

- * 良質で根拠のある看護・介護を効率的に提供する。
- * 地域、他部門、他職種の人たちと意思の疎通をはかり、
継続された看護・介護を目指す。
- * 患者様の生命および人権を尊重し、
生活の質の保証と自立への支援・援助をする。

職業倫理規定

当院職員は医療人としては勿論のこと、社会人としての常識を持ち、各種法令と院内規定に従い、常に真摯に患者、家族に接することを要する。

当院職員は医療人として、医療のプロとしての自覚を持ち、常に自己研鑽を心がけ、診療並びに保健指導に置いて地域に貢献することを要する。

当院は診療を求めてきた患者に対して、標榜科の範囲内において、年齢、性別、宗教、思想信条、貧富、国籍、病状の軽重等において差別することなく、医療水準に則った医療を提供するものとする。

患者とは常に適正な関係を維持する事を心がけ、要求される情報は最大限に提供するものとし、一方、守るべき患者の秘密は、これを守る責を有する。

なお、当院の医療水準では対応しきれない恐れのある患者には、速やかに適当な医療機関を紹介又は移送するものとする。

当院は移植医療、生殖医療、遺伝子治療はこれを行わない。治験に付いては、治験委員会の規定に従う。

職員自らの宗教、思想信条、政治的信念は尊重されるものであるが、これらを職場に持ち込むことは、これを認めない。

臨床倫理規定

1. 旭川高砂台病院の職員は、地域医療の担い手として常に地域住民の保健衛生の増進に努めなければならない。
2. 旭川高砂台病院の職員は、勤務中・勤務外を問わず、法規範を遵守し、地域住民に尊敬される言動に努めなければならない。
3. 旭川高砂台病院の職員は、つねに知識と技術の習得に努め、地域住民に最良の医療・介護を提供するようにしなければならない。
4. 旭川高砂台病院の職員は、医療・介護を受ける人々の人格を尊重し、やさしい心で接するとともに、信頼を得るように努めなければならない。
5. 旭川高砂台病院の職員は、地域の医療・介護機関者と協力して、最適の医療・介護を提供するように努めなければならない。

患者の権利章典

(前文)

私たちは、安全で質の高い信頼される医療を、患者と医療従事者の『共同の営み』として継続・発展させていくために、ここに『旭川高砂台病院 患者の権利章典』を定めます。

患者が自分の生命や健康にかかわる医療情報を共有し、医療に主体的に参加することは、これからの医療に必要不可欠のものとなっています。

私たちは、健康や福祉を妨げるあらゆる問題を共同の力で克服し、真に患者の立場にたった医療を実現するために『旭川高砂台病院 患者の権利章典』を日常医療に生かします。

§ 患者の権利と責任 §

患者には、診療・療養の主体者として、以下の権利と責任を有します。

【 医療を受ける権利 】

患者は、いつでも、病状に応じて必要かつ専門的な医療サービスを受ける権利があります。

【 知る権利と自己決定権 】

患者は、自己に関する医療情報について、カルテ・検査結果・レントゲンフィルムなど、医療記録の閲覧または複写を請求する権利を有します。

また、病名・症状・検査や治療の方法とその危険性、代替手段、経過や予後の見とおし、薬の内容や副作用、費用などについて十分な情報や説明を受け、理解した上で、自らの意志に基づいて治療方法等に同意・選択・拒否する権利を有します。

【 プライバシーを保護される権利 】

患者は、個人の秘密や医療に関する個人情報と保護されるとともに、私的なことにみだりに干渉されない権利を有します。

【 学習する権利 】

患者は、健康や病気、医学知識や医療制度、福祉や社会保障制度などを学習する権利を有します。

【 医療参加と責任 】

患者は、医療従事者とともに力を合わせて、診療・療養を遂行する為に自己の病歴・家族歴・身体の症状などを正確に伝え指示に従って療養に専念する責任を有します。

診療録等の開示指針

1. 当院は医療者と患者さんが、相互に信頼関係を保ちながら共同して疾病を克服する目的及び情報の共有化による医療の質の向上を目的として診療情報の提供を行います。
2. 診療情報の開示請求は、外来通院中、入院療養中、退院後にかかわらず患者さんの自己意志によりいつでも行えるものとする。
(原則当院診療時間内)
患者さんの治療目的に影響がでない限り情報開示について患者さんの意志を最大限に尊重することとします。
3. 診療情報は、患者さん本人に提供することが原則です。
代理人への情報提供は、あくまでも例外的なものです。
4. 医療者は、患者さんの身体、疾病、療養に関する事柄を守る義務(刑法上の秘守義務)があります。
5. 本人以外による診療情報の請求は、患者さん本人の意思確認ができる委任状を添えて行うものとする。
6. 診療情報の開示請求は、診療記録の閲覧、複写、要約書の請求をもって行うものとする。
7. 診療情報の開示は、開示の日時を前もって調整し、旭川高砂台病院院内で行うものとする。
記録等の院外持ち出しは認めないものとする。
8. 診療情報の開示に伴う費用は以下の如しとする。
 - a 閲覧・・・無料とする。
 - b 複写・・・所定の費用を徴収する。
 - c 要約書・・・証明書に準ずる費用を徴収する。
 - d 代理人に依る面談・・・所定の面談料を徴収する。
9. 尚、診療情報の開示に関して苦情のある場合には、当院院長又は旭川市医師会にその処理を申し立てることが出来る。

病院概要

日本医療機能評価機構 認定取得 第JC671号

病院名称 医療法人社団 恩和会 旭川高砂台病院

所在地 北海道旭川市高砂台1丁目1番22号
電話 0166-61-5700(代)
F A X 0166-61-5089
H P <http://takasagodai.com>

経営者 理事長（院長） 恩田 芳和
昭和23年8月23日生
昭和48年3月 弘前大学医学部卒
昭和50年4月 北海道大学医学部第一外科入局

開設年月日 昭和63年12月15日
(平成10年7月 医療法人社団 恩和会 設立)

診療科目

内科（消化器、循環器、呼吸器、内分泌、代謝、糖尿病、胃・大腸内視鏡、老人、人工透析、漢方）
外科（消化器、末梢血管、肛門、内分泌、老人）
整形外科、眼科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、
歯科、歯科口腔外科

許可病床数 193床

病棟内訳	B棟2階 療養型病棟（医療対応）	46床
	B棟3階 療養型病棟（介護対応）	48床
	B棟4階 一般病棟 障害者施設等入院病床（医療対応）	50床
	C棟 療養型病棟（介護対応）	49床

従事者概要

医師 7名・歯科医師 2名・看護師 11名・准看護師 30名・
看護介護補助者 74名・理学療法士 6名・柔道整復師 2名・
臨床検査技師 2名・視能訓練士 0名・放射線技師 2名・薬剤師 2名・
臨床工学技士 2名・介護福祉士 19名・社会福祉士 2名・
介護支援専門員 4名・言語聴覚士 1名・管理栄養士 2名 他
(常勤換算)

看護体制

外来		外来患者数 ÷ 30		2名
2階	46床	看護要員	20 : 1	11名
		看護職員	病床数 ÷ 20 × 3	7名
		看護師	看護職員の20%以上	2名
3階	48床	看護職員	6 : 1	8名
		介護補助者	4 : 1	12名
		看護師	看護職員の20%以上	2名
4階	50床	看護職員	15 : 1	17名
		看護補助者	6 : 1	9名
		看護職員	病床数 ÷ 15 × 3	10名
		看護師	看護職員の40%以上	4名
C棟	49床	看護職員	6 : 1	9名
		介護補助者	4 : 1	13名
		看護師	看護職員の20%以上	2名

※ 看護要員とは、看護職員＋看護補助者
看護職員とは、看護師＋准看護師

併設施設 通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所

連携病院 旭川医科大学（第一内科、第二内科、眼科）
北海道大学歯学部第一口腔外科
旭川赤十字病院 市立旭川病院 旭川厚生病院 等

沿革

1988年 (昭63年)	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・病院開設許可取得 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">工 事 概 要</p> <p>工 事 名：旭川高砂台病院新築工事 所 在 地：北海道旭川市高砂台1丁目1番22号 工 期：着工 昭和63年03月30日 竣工 昭和63年11月30日 構 造：A棟 RC造地上2階、塔屋1階 B棟 RC造地上5階、塔屋1階 建設管理：株式会社 総合建築研究所 施 行：建築主体工事 株式会社 伊藤組土建</p> </div>
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川高砂台病院159床開設 (一般病床60床 特例許可老人病床99床) 診療科目 内科 外科 整形外科 消化器科 循環器科 呼吸器科 放射線科 理学療法科 ・旭川保険事業ミニドック実施医療機関
1989年 (平元年)	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・『職員親交会』発足
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・労災指定病院
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・各種予防接種指定医療機関
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急指定病院
1990年 (平2年)	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：高血圧をしっかりと学ぶ
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：老人の足・腰の痛み
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・開院2周年記念誌『飛翔』発行
1991年 (平3年)	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：動脈硬化について
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川保険事業乳ガン・大腸ガン検診実施医療機関指定
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：肝臓について
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：高血圧とその予防
1992年 (平4年)	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：「胃の話」
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川ヘルスパイオニア事業人間ドック実施医療機関
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施
1993年 (平5年)	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：予防医学Part2
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・肛門科新規開設
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：高齢者の健康管理
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第一期増築工事終了（B棟5階一部増築）
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・人工透析部門・高圧酸素治療新規開設 ・『病院だより』第1号発行
1994年 (平6年)	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・『健康教室』実施 テーマ：高血圧
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第二期増築工事終了（A棟一部増築）
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科・歯科口腔外科新規開設

2001年 (平13年)	4月 6月 8月 10月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士採用 言語療法訓練・摂食機能訓練開始 ・『病院だより』発行 ・第2回病院祭『八宝祭』実施 ・『病院だより』発行 ・病床種別変更申請認可（一般病床48床 療養病床145床） ・病院ホームページ開設
2002年 (平14年)	7月 8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第四期増築工事終了（B棟2階談話室・相談室開設） ・第3回病院祭『八宝祭』実施 ・特殊疾患療養病棟新設46床 施設基準・病床区分変更 （一般病床50床 医療療養型病床46床 介護療養型97床） ・院内情報共有LANシステム『サイボーズ』稼働開始 ・『病院だより』発行
2003年 (平15年)	1月 6月 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・一般病床（障害者施設入院基本料50床）認可取得 施設基準変更 ・『病院だより』発行 ・第4回病院祭『八宝祭』実施
2004年 (平16年)	2月 4月 5月 7月 8月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・集団栄養指導『生活習慣病（糖尿病）』実施 ・リハビリ部門にてパワーリハビリテーション開始 ・『病院だより』発行 ・『病院機能評価』受診申請 ・指定訪問介護事業所認可取得 ・老人居宅介護等事業認可取得 ・グループハウス『楽楽Ⅰ』提携開始 ・第5回病院祭『八宝祭』実施 ・『医』旭川高砂台病院地域連携室』開設 ・集団栄養指導『高齢者のための食事』実施 ・『病院だより』発行
2005年 (平17年)	8月 9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回病院祭『八宝祭』実施 ・グループハウス『楽楽Ⅱ』提携開始 ・リハビリ部門 機能訓練室拡張工事終了 ・高機能収納式介護浴槽新規導入 ・(財)日本医療機能評価機構認定取得 認定第JC671号 審査体制区分2 Ver4.0 ・『病院だより』発行
2006年 (平18年)	3月 4月 7月 8月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・医療用情報システム導入 医療用画像サーバー『SYNAPSE』導入運用開始 ・環境整備の為『完全禁煙』（敷地・施設内）実施 ・『長期入院患者家族会』発足 ・特殊疾患療養病棟廃止46床 施設基準・病床区分変更 （一般病床50床 医療療養型病床46床 介護療養型97床） ・『病院だより』発行 ・第7回病院祭『八宝祭』実施 ・『病院だより』発行

<p>2007年 (平19年)</p>	<p>7月 8月 9月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『病院だより』発行 ・第8回病院祭『八宝祭』実施 ・人工透析装置システム 設備リニューアル ・低温プラズマ滅菌器 ステラッド50新規導入
<p>2008年 (平20年)</p>	<p>4月 5月 7月 8月 10月 11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『長期入院家族会2周年院長特別講演』 (長寿の秘訣～百歳まで生きよう) ・『病院だより』発行 ・集団栄養指導『生活習慣病(メタボリックシンドローム)』実施 ・訪問リハビリテーション指定認可取得 ・第9回病院祭『八宝祭』実施 ・診療科目(標榜科名)変更 内科(消化器、循環器、呼吸器、内分泌、代謝、糖尿病、 胃・大腸内視鏡、老人、人工透析、漢方) 外科(消化器、末梢血管、肛門、内分泌、老人) 整形外科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科 歯科、歯科口腔外科 ・外来『点滴療法』開始 ・マルチ2スライスCT撮影装置「SOMATOM Spirit」導入
<p>2009年 (平21年)</p>	<p>4月 7月 8月 9月 11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会講演『知って得する漢方～漢方を正しく理解するために～』 ・集団栄養指導『生活習慣病(塩分を減らす工夫)、(油分の選び方)』 ・第10回病院祭『八宝祭』実施 ・医療機器安全管理室設置 ・ヴァイオリンコンサート(デイケア利用者・家族・地域住民参加) ・大正琴アンサンブル(デイケア利用者・家族・地域住民参加)
<p>2010年 (平22年)</p>	<p>1月 3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問歯科検診開始 ・一般病棟に個室型一般浴槽設置 ・『病院機能評価(更新)』受診申請

事務長挨拶

健康管理とワークライフバランス

事務長 関本 昌男

本年度は職員健康管理の重要性を痛感し、また各職種において従事者不足に苦慮した一年でもあった印象が強い。

年度当初より私自身も含め数名の体調不良者が相次ぎ休職もしくは業務制限を余儀なくされる状況となりました。

このような環境の中、人事管理者として意識し行ってきたものが、職員の健康管理としてのワークライフバランス（WLB：仕事と生活の調和）でありました。

人員不足による影響で既存職員が過重労働疲労や精神的疲労に陥らないためにも、また、心身ともに健康な状況を保持するためにも、積極的に職場環境を快適な状況（人員補充、人員適正配置、労働時間軽減）に整えていく必要性がとみに高まり「メンタルヘルス不調職員を出さない」という病院全体における職員一人ひとりの健康管理強化意識が高まった一年であったと振り返る。

また、心身ともに健康であってこそ、仕事と生活の調和が成り立つものでり、職員健診による健康管理、長時間労働の発生防止、設備面での快適な労働環境の整備、年次有給休暇の効果的活用促進、育児・介護休暇制等々について今後も継続的取組が必要であることを再認識した一年でもあった。

最後に私自身の体調不良の際には、多くの職員の協力を得て一年間職務を、なんとか遂行出来た事に対し、全職員への感謝と健康への自己管理の重要性を痛感し挨拶とする。

師長挨拶

21年度を振り返って

看護部 師長 中川 厚子

例年の事ながら、とにかく人員確保に追われた1年ではあった。

努力しても欠員補充は間に合わず、結果、介護病棟の1病棟閉鎖という前代未聞の悪状況からスタートした1年であった。

採用した人材が定着出来ない状況や原因は何か・・・ひとつひとつ調査し、病院として対応していただいた。

結果、22年4月には何とか以前の人員数の確保に成功した。

今後は産休や育児休暇、休職の職員が安心して復帰できる環境を目指して行かなければならないと改めて感じている。

各病棟、外来師長には、この悪状況の中、多大なる努力と犠牲、そして最大の協力を得たことを深謝したい。

院内研究発表においては、毎年向上を続け、今年度の看護研究の中からは当院のスタンダードとなる介護マニュアルの新規制作や、看護手順へと導入された看護研究もあり、次年度に更なるステップアップを期待させる内容である。

自分たちの業務を見直し、学習、改善、改修することで業務レベルの向上も今後期待できる。

そういう意味から、まだまだ進化できる集団と信じてやまない。

問題点といえば、接遇問題があげられる。

世間で事件になっているような虐待や暴力は無いと信じるが、言葉の荒さや親しみの勘違い、そして言葉の暴力は全く無いとはいえない。

看護部全体・・・いや、職員全体の問題として取り組み指導対象となったケースや職員もあり、当院としては今後も全力で取り組んで行かなくてはならない。

そして、事故報告から、確認ミスによる単純ミス、それも投薬に関するミスが多いという現状。

委員会においても学習会や現場指導の確認と事故防止に余念はないと思うが、次年度も意識改革から積極的に取り組んで行かなくてはならないと考える。

最後にこの人員不足の中、無事に1年を乗り切れたことを多忙の中、一生懸命業務に当たってくれた看護部職員に深く感謝する。

次年度は、人間的にも余裕を持って、笑顔満開の環境を提供出来ることを努力したい。

一年間を振り返って

平成21年度医局年報

医局長 稲場 守

(1) 医局の構成人員について

平成21年4月より外科・整形外科は常勤にて恩田院長、井餘田医師2名で診療、内科系は常勤にて橋本医師、若林医師および稲場医師の3名に齋藤医師加わる。しかし、5月に個人的理由により橋本医師退職。

非常勤にて月曜は循環器科・神経内科に旭川医大第一内科の齋藤医師他、また金曜日は膠原病・内分泌内科に旭川医大第二内科の牧野医師他、眼科は常勤で澤木医師、非常勤で旭川医大眼科加藤医師他、歯科口腔外科は常勤で加藤医師、非常勤で北大歯科口腔外科佐藤医師他で診療にあった。

日直・当直は当院常勤医の他、旭川医大第一内科および旭川医大第2内科の医師の協力も得、あたった。

医局長は稲場医師が前年より継続担当し、毎月原則第3木曜日に医局会3か月に1度の割合で倫理委員会を開催した。

(2) 診療について

泌尿器科を若林医師開設。

(3) 各種委員会の関わりについて

褥瘡対策委員会委員長に井餘田医師、記録監査委員会委員長に若林医師、医療事故対策委員会委員長に橋本医師より齋藤医師に交代、感染症対策委員長に稲場医師があたった等。また輸血委員会委員長に若林医師があたる。

(4) 学会参加について

日本外科学会（平成21年4月1、2、3日、東京開催）に井餘田医師参加。

日本消化器外科学会（平成21年7月16、17、18日、大阪開催）に若林医師参加。

日本消化器病学会週間（平成21年10月14日より同年10月17日、京都開催）に

稲場医師参加等。

(5) 講演、発表、地域連携について

患者家族会（平成21年4月14日）で恩田院長が「知って得する漢方」講演。

栄養科主催栄養指導勉強会（平成21年7月28日）で

齋藤医師が「生活習慣病の病態について」講演。

褥瘡対策委員会感染症対策委員会合同勉強会（平成21年7月28日）で

井餘田医師が「創部の消毒について」で講演。

患者家族会（平成21年8月11日）で

加藤歯科医師が「お口と体の健康について」講演。

ねんりんピック北海道2009旭川（平成21年9月6日）救護医療班として

齋藤医師参加。

患者家族会（平成21年9月8日）で澤木医師が「目の健康」で講演。

患者家族会（平成21年12月8日）にて齋藤医師が「心臓について」講演。

管理職研修会（平成22年3月25日）にて

恩田院長が「倫理、労働条件、個人評価」講演。

HBCラジオ『イキイキ健康ライフ』

第2、第4金曜日 AM11:45～に恩田院長が出演。

2階病棟の1年を振り返って

2階病棟 副師長 浅井 真澄

平成21年度、2階病棟は病院目標「自分の病院を好きになろう」とほぼ同意である、「自分の職場を好きになろう」を部署目標とした。

自分の職場を好きになるためには、職場が良い環境であることが必要であり、その環境の大半を占めるのが人間関係であろう。

自分の職場を好きになるためには、人間関係が良くなけてはならない。

生まれや育ち、考え方が全く違う人間が寄り集まり、患者の看護や介護を行おうというのである。

表情が乏しく、事務的な会話しかなくては、職員同士の良い信頼関係は築けず、結果、患者にとって良い介助ができるとは思えない。

まずは、笑顔と和やかな言葉使いで外面を変え、何に対しても感謝の気持ちを持ち、互いに助け合えるチームワーク作りで内面を変えて行く事で、スタッフ1人1人が自分の職場を好きになれるのではないかと考え取り組んだ。

患者に対して笑顔で挨拶したり、丁寧な言葉使いを心掛けるのは当然であるが、職員同士となるとゆっくりとコミュニケーションをとる時間がなく、個人の能力、性格の違いを知り認め合うことが、まず難しい。

しかも、24時間体制の業務のため、日々スタッフの顔ぶれは変わり、お互いをよく知らない状態での勤務となってしまう事もある。

しかし、大半のスタッフは、やさしい気持ちを持ち、助け合う事ができる。「自分達の職場を少しでも良くしたい」という気持ちを持っているからである。

残念ながら、中には皆に同調できず、チームワークの外に出てしまう者もいた。何が原因なのか、どうすれば解決するか、突詰めて考える機会を作るべきだったのかもしれない。

目標は「職場を好きになろう」であったが、元々嫌いだけど働いている訳ではなく、もっと好きになるにはどうしたらよいかを考えていたことになると思う。

目標が100%達成されたわけではなく、その方法が正しかったのか、又、十分な努力ができていたのか疑問点は残るが、自分が働く職場をどう思っているのか考える良い機会であった。

嫌いな職場で働きたい人間はいない。今後も好きな職場であり続けるため、足りないものは何なのか、考え続けなければならぬ。

一年を振り返って

3階・C棟 介護病棟 副師長 大類 加津子

看護職員の不足から病棟の縮小、統合を行い、勤務体制の変更及び患者層の分担などの策にて介護病棟の再スタートを切りました。

夜勤看護師1名で70～75名の患者を看ることは、精神的にも、肉体的にも負担は大きく、また業務体系が変わることでの業務の流れの悪さも手伝って、スムーズに業務が回るまでには数ヶ月を要しました。

勿論、スタッフ全員に新しい物を習得するための努力、人に慣れるための努力を課す事になりました。

「他の人の気持ちになって考えよう」「自分のできることから始めよう」
「小さな目標をクリアし、積み重ねて行こう」

「仕事の中から楽しみを見つけ出そう」……と具体的な行動計画を立て日々を経過するのですが、業務の煩雑さの中でスタッフ60人あまりの隅々まで目は行き届かず、只「人の輪」を作ることを心がけました。

それぞれに意志、感情がある中で、それぞれの仕事をして頂くためには、ぶれる事の無い考えを全面に出し、その上保持しなければなりません。

問題のある度にカンファレンスにて、介護病棟の目的を噛みしめ、自分達職種のあるべき姿を確認しながら進んできましたが、今がけしてあるべき姿（介護の質）とは思えません。

新しい職員も大幅に増え、新しい外の風を吹き込みながら一層より良いものをめざして行かなければなりません。

人間が人間を看ているのですから、人間として常識的な「介護の質」は、これからも大きな課題として四苦八苦しなうら取り組んで行きたいと思ひます。

一年を振り返って

4階病棟 副師長 栗山 章枝

色々な事があった一年であるが、振り返っても私自身は忘れっぽい性格なのか細かい事はあまり覚えていない。

4階病棟は、相変わらず波瀾万丈な日々が多く、多忙な毎日であった。学生が多く、実習などになると、たちまち人員不足になってしまうため一人一人の業務量も多く、皆、必死でこなしていたと思う。

透析と病棟という二足の草鞋を履かなければいけないなか、皆、一所懸命頑張ってくれた。

研究発表でも、スタッフが一丸となって暑い中、汗だくになり入浴介助を休日返上で成し遂げる事ができた。

口うるさく、力不足の私の指示・指導に看護師、助手、ケアー、病棟婦の全員のスタッフが頑張って、私自身を支え、モチベーションを保ってくれていると思ひている。

そのおかげで健康で好きな仕事ができている。

1年を振り返って

透析室 主任 山下 裕之

我が透析室は、昨年度より体制を大きく変更した為、いろいろな面で新しくシステム化していかなければならなかった。

今年度はそのシステム化した基礎をより確実な物にする事を目標に、二つの課題を立て日々を積み重ねた。

ひとつめは「チーム医療」をテーマに、他セクションとの連携や情報提供の充実を図る事である。

これは自らが透析についての勉強会等を行う事により、他セクションスタッフと共通の認識が生まれたように思える。

又ひとつの些細な問題でも話し合える環境も出来つつある。

ふたつめは業務の改善と効率化をはかり、スタッフの看護・介護の質の向上を図るという事である。

これについてはスタッフそれぞれが自分自身に課題を持って日々取り組み、その日の最善を考え行動出来て来ている。

結果として、チーム医療の充実は前年度からの継続目標であるが、確実に向上してきていると思われ、又それに付随してスタッフの考え方の向上が見えるようになった。

ただこれも一歩ずつであり、毎日が確実になるように次へつなげて行かなければと思う。

中央材料室・手術室業務を振り返って

中央材料室・手術室 主任 中野 順子

21年度の中材・手術室は、(1)洗浄・消毒・滅菌業務について見直し、改善。(2)中材と関わる看護助手業務について指導、(3)衛生材料の定数確保の検討など、行ってきました。

(1)については十分な洗浄の徹底に努め、AC滅菌をかける方法へと見直しを行いました。

従来はディスオーパ 消毒後更に滅菌をかけていましたが、器材ごとに消毒と滅菌扱いとに分けました。

操作方法では中材業務研究会等に参加、学んできた内容を伝え、エビデンスに基づき変更することでスタッフの考えにも変化がみられ改善できました。

(2)については今年度、新人看護助手が多く、中材と関わる助手業務について資料を作成、各部署に配布。

又、日頃の業務中で徹底してほしいことは、窓口の掲示板で知らせるようにしました。

看護助手は日毎変わることが多く、期間を設けて掲示したことで伝わっていききました。

(3)については各部署の使用状況を把握し、不要な在庫をなくし効率的な物品管理が行えるよう物品確保を1ヶ月分から1週間に変更しました。

発注しても納品に時間がかかる物もあり払い出しできず、物品によっては一時的に各部署間で調整を図り協力していただきました。

年間の手術件数は 158 件	内訳)	外科・整形外科	14 件
		眼科	142 件
		泌尿器科	1 件
		口腔外科	1 件
	麻酔別では)	全身麻酔	5 件
		腰椎麻酔	1 件
		局所麻酔	152 件

※ 前年度と比べると 42 件増加。

10月より医療機器管理室が設けられ、臨床工学技士1名が常勤、各器機の点検、トラブル対応等を担って下さり、安心して使用することが出来るようになりました。

Dr・他部署の意見・協力を仰ぎながら、中材スタッフ一同、安全な滅菌器材を提供できるよう取り組んでいきます。

今年度を振り返って

医療機器安全管理室

臨床工学技士 浅野 順義

平成21年10月1日 医療機器安全管理室が開設された。

それまでは兼務であった人工呼吸器等、医療機器の保守管理や院内医療ガスの保守管理をすることとなった。

『良質な医療と安全と安心の介護』のためになくってはならない部署であり、身の引き締まる思いで開設を迎えた。

まずは院内の医療機器および医療ガスの整備や整理、機器リスト作製や点検記録簿、点検予定表を作製した。

これまでは管理方法、設置場所等が一元化されておらず、使用方法や点検方法に問題がある物もみられた。

また機器の取り扱い説明書を揃え、講習会に参加し、誰もが安全かつ同じ手順で操作できるようマニュアル作製にも取り組んでいる。

多種多様の医療機器の整備、保守管理は簡単ではないが、他職種の皆様の協力のもと『医療機器安全管理室』として機能しはじめたと感じている。

今後も講習会や研修会に積極的に参加し、医療機器および医療ガスの安全な使用や諸問題を学び『良質な医療と安全と安心の介護』の担い手として日々努力したい。

平成20年度を振り返って

外来 副師長 川島 恵子

職員配置	一般外来	看護師	1名	准看護師	1名	看護助手	1名
	眼科外来	看護師	1名	ORT	1名		

患者数月平均 1,028名 (うち161眼科名)

4月から齋藤医師が加わり診療体制の充実を目指してきた。
若干ではあるが患者数の増加が見られた一年であった。

慢性疾患の方が多い状況は変わらず、内服を確実に出来るよう援助の工夫をしたり、治療の中断の無いよう患者さんとのコミュニケーションをとることを念頭に、スタッフ一同努力してきた。

グループホーム忠和との連携では週に一度だが、看護師が訪問し一般状態の観察、ホームでの様子観察を行い、情報収集に努め、診療時に役立てるようにしている。

点滴療法は人数が増加傾向にあるが、保険診療外ということで継続する事が困難な方がいることも確かなのが残念である。

また治療途中で亡くなられた方もいらっしゃる。
継続されている方は、週1～2回続けられ効果を実感している。

プラセンタカクテルで脱毛症が完治した方がいらっしゃって、1年以上にもわたる治療に根気よく来てくださったことにも感動した。
また、VC、マイヤーズ、キレーション、プラセンタと数種を一人で経験された方もいらっしゃる。

H21年4月～H22年3月	施行者人数	延べ回数
高濃度VC点滴療法	16名	377回
プラセンタカクテル	6名	85回
グルタチオン	4名	68回
マイヤーズカクテル	3名	17回
キレーション	1名	9回

手術時、眼科外来看護師と外来看護師が介助に入り、手術室との協力体制ができて来ている。

また、不思議な事に混雑する日は、いつも別な曜日にいらっしゃる方が用事が出来て、たまたま来るのが重なったり、救急車がきたり・・・うまくいかないと感じるが、医師の協力の下、出来る調整は行い、事故を起こさず今後も協力し外来を盛り上げていくのが目標である。

20年度を振り返って

眼科 看護師 平出 幸枝

職員配置 看護師 1名 OMA 1名

<u>術前検査</u>		
	白内障	102件(両眼含む)
	硝子体	5件
	翼状片	5件
	眼瞼形成	7件(両眼含む)

特に今年の眼科外来では、術前検査でわかるように手術件数も増えている。
その中でも紹介による遠方地域の方が多いため、外来での特徴でもある限られた
時間内での患者の情報収集に努めた。
入退院も多く、病棟との密の連絡、事故防止等にも努めた。

その他の検査 視野検査
 F A G（蛍光眼底造影検査）
 ※F A Gについては例年より検査件数が増えている

外来手術 P C（網膜光凝固術）

眼科外来では、高齢者が多く受診する。
理解に乏しい患者に対して医師の説明を再確認し、充分理解した上で帰宅しても
らうことの重要性を改めて実感した。
スタッフとの声かけにより、スムーズな診察を心がけ、待ち時間の軽減に努めた。
今後も、一般外来・手術に携わり、スタッフ一同看護の向上に取り組んで行き
たい。

今年度を振り返って

歯科・口腔外科 主任 松田 美恵子

昨年から引き続き、北大第一口腔外科の加藤歯科医師とともに診療を行っています。

初診の方も少ずつ増えてきました。

他院からの水平埋伏抜歯の依頼も増え、全身麻酔での手術も行いました。

今年度から新たに、提携先機関でもある『グループハウス あいの丘 楽楽 I号館・II号館』、『適合高齢者専用賃貸住宅 ら・ら』の無料訪問歯科検診を行い、口腔内の健康維持に少しでもお役に立てられるように、又、病棟や通所のデイケアにて同様に行い、いち早く口腔内の異常、義歯の不適合や虫歯、歯周病の早期発見に努めてきました。

口腔乾燥のひどい方は、往診にて週1回口腔清拭を行い、歯肉からかなり出血している方も改善されてきました。

寿退社などにより歯科衛生士も新しくスタッフを迎え、今のところ2人体制で力を合わせて頑張ってきました。

早く元の3人体制に戻れるよう増患、増収に努めていきたいと思いをします。

80歳で20本残そうという8020運動が行われていますが、高齢化時代に入り80歳まで健康な歯を28本保っていた方でも、自分で歯磨き出来なくなったらあっというまに虫歯や歯周病が進みます。

歯の周りに溜まった食渣や細菌で誤嚥性肺炎を起こすこともあります。

介護を受けられていて自分で歯磨き出来ない方でも、奥様、ご主人様、家族の方々の献身的な口腔ケアのお陰で健康な歯を保っているかたもいらっしゃいます。

口腔機能を高める事が全身の健康維持に良い影響を与え、質の高い生活を生涯維持するよう今後も地域の担い手としてお口の健康増進から全身の健康増進を進めていくために口腔清掃ケアの普及に努力していきたいと思いをします。

薬局業務をふりかえって

薬局長 眞岸 伸好

当院は『院内処方』を採用しております。
よって当院薬局の大きな仕事のひとつが、外来調剤業務であります。

調剤は『処方監査』→『薬剤調剤』→『服薬指導』の三要素から成り立っています。

当院では、調剤業務を行うにあたって、スピード、効率化はもとより薬物療法の安全性、有効性の確保の為、きめ細かい情報収集を実施しております。

また、当院薬局は院内でのチームとして稼働していますので、収集した医薬品安全情報、副作用情報等はすべて診療関連部署に提供し、院内で共有化しております。

特に本年は、22年7月の病院機能評価更新を重点対策しておりますので、その情報量は益々充実してきていると思いをします。

以下簡単ですが、本年病院機能評価更新の為、バージョン・アップさせた薬局マニュアルの一部を紹介致します。

◎調剤業務手順

従来は、薬局全体の手順を決めていたものを、今回、薬剤師・助手・またその経験年数ごとにきめ細かい手順と最終到達目標を設定しました。

◎ハイリスク薬についての情報提供

従来なかった枠の『ハイリスク薬』についての考え方、一覧を示し、より患者さんの安全対策に重点をおきました。

◎抗菌薬使用指針の更新

抗菌薬の選定に必要な、情報を更新し、実際当院での使用状況も把握できる様にしました。

◎持参薬管理シートの作成

これにより、当院入院前の服薬状況と副作用を把握し、当院の処方設計に役立てていただく事にしました。

◎取り違え防止対策手順の作成

似た名前、似た形状の錠剤、アンプル等の事前情報提供により、事故防止します。

他に、病棟の注射薬混注業務支援・指導等、継続的に取り組んでいかなければならない業務が、山積みです。

今後も各部署との連携、よろしくお願いします。

1 年を振り返って

放射線科 主任 岸本 彰久

平成20年度にマルチスライスCTを導入、今年度は超音波（アロカ・プロサウンド8）を導入し、画像診断のデジタル化が着実に進んでいます。

新たな検査機器を使用する事で、画質の向上、性能の向上による診断能のレベルアップは勿論のこと、超音波検査をシナプスに取り込む事でCRやCTなど、他のモダリティーとの比較検討が容易に行うことが出来るように成りました。

実際、新機種導入後の超音波検査件数は大きく伸びています。

現在はまだX線TVがデジタル化に成っていない状況ですが、将来的には収益性は低くてもX線TVのデジタル化を行い全ての画像診断でのフィルムレス化を目指している所です。

一年間を振り返って

検査室 副主任 梅森 恵美

平成21年度『病院を好きになろう』と言う病院目標でスタートした。

検査室として『病院を好きになる』とはどのような事をさすのか・・・

- * 検査技師としての仕事を好きになる
 - ・・・ 自分の仕事にやりがい、達成感を感じる
- * 他部署の職員を好きになる
 - ・・・ 他部署とのコミュニケーションを大切にする
- * 患者を好きになる
 - ・・・ 優しい気持ちで患者に接する

再度、確認し意識しながら、平成21年度の業務、仕事に取り組んだ。

平成21年度を振り返って、思い出される一つとして新型インフルエンザの発生である。

本来の流行時期とは、まったく違い、夏からインフルエンザ検査を行うこととなった。

インフルエンザワクチンについても、季節性と新型の両方の接種が必要になり接種希望収集、リスト作成、ワクチン納入量、納入日の調整など・・・

感染防止対策委員会関連の仕事が立て込み、2人しかいない検査室としては大変忙しい毎日であった。

20年を越える機器がいくつもあり、故障によるトラブルが、発生しがちで、メンテナンス、精度管理については、より一層慎重に行う必要性が出てきた。

平成21年度 一年を振り返って

リハビリテーション科 主任 P T 田村 博

平成21年度はリハビリテーションがより地域のために働くように、院長の号令の下に訪問リハビリテーションが開始となりました。

4月から6月は営業中心で知名度向上を向上させることに専念しました。
7月以降は徐々に契約件数が増加しました。

10月からは院長より地域奉仕のために訪問リハビリテーションがより発展できるように指導を頂き、現在のPT4名の体制で対応することとなりました。

現状は減床解除に伴い院内リハビリテーション対象者が増加となっています。訪問リハビリテーションも契約件数が20件を超えて、月200回弱の訪問回数をこなしています。

そのためスタッフは手が不足しています。

現在、募集がかけられている理学療法士、作業療法士が必要数入職してくれた際には、より院内や訪問のリハビリテーションが充足発展し、地域に役立つ病院の一歯車としてさらに機能できると思われれます。

今後もより良い医療と介護の提供のために私達リハビリテーション科一同は頑張っていきます。

平成21年度を振り返って

デイケアセンター 室長 山田 正臣

- ・ 営業日数 310日（日曜日・年末年始5日間休み）
- ・ 総延べ人数 7,328人（平成20年 7,676人）（前年比 -348人）
- ・ 総収入 72,003,940円（平成20年 75,744,981円）（前年比-3,741,041円）

長年に渡り、多く通所して頂いた方の入院及び施設入所等による契約終了や、生活のため訪問介護等の他介護サービスを併用することでの通所回数の減少、営業(宣伝)の不足が減収の主な要因であったと考える。

22年度にむけ、他の通所系施設見学(5ヶ所)・利用者満足度調査を実施。ここで、知りえた情報を基に、利用者さんの笑顔と収益向上めざし取り組んでいきたいと考えております。

平成22年度年度デイケアセンター業務方針

- 1、年間総収入 73,000,000円を目指す。（前年度 72,003,940円）
（月6,100,000円・月延べ人数 610人～）

○営業活動の強化。(外部居宅介護支援事業者開拓)

- ・全デイケア職員1人1人が利用者を獲得できるよう人脈作りを徹底すると共に、外部事業所及び近隣地域にPR活動を提案・実行する。
- ・毎月、各居宅介護支援事業所に計画書等の必要書類を届けに訪問。
(担当者・事務大石)
- ・無料体験等の広告を作成し、近隣地域(高砂台・神居・忠和)自宅に直接配布。回覧板も利用。
- ・各居宅介護支援事業所に空き状況等FAXでの案内を行う。
- ・当院各居宅介護支援事業所ケアマネジャー(斉藤・小河)連携し、協力頂く。

○外出行事(野外リハビリテーション)の実施。

- ・アンケート調査にて希望が多かった外出行事を実施、追加利用及び通所回数の増加を目指す。尚、実地指導にも対応できるよう、野外リハビリテーションという観点から書類作成を行う。

この一年を振り返って

医事課 課長 井上 英規

21年度は、事務長が病氣療養のため暫くの間お休みをされ、いくつかの業務を引き継いで行うことになりました。

そのためその間は、自分でも何をどのようにして仕事をしていたのかあまり憶えていないくらいの状態でした。

色々な不安のなか日々の仕事を行っており、周り状況などもあまり見えていませんでした。

しかし事務室・医事課のスタッフの助けをいただき、乗り越えることができました。とても感謝しております。

22年度は、病院機能評価再審査という大きな山があります。皆の協力し助け合い、乗り越えられるよう頑張ってお参ります。

また、来院される方を初めにお迎えする医事課ですので「笑顔での対応」「患者の立場になって物事に取り組む」ということを忘れず日々努力していきたいと思っております。

1年を振り返って(平成21年度)

医療福祉相談室 主任

医療ソーシャルワーカー 樺澤 康裕

平成21年度は、3年に一度の介護報酬改定の年でした。
同時に新要介護認定が導入され、全国で批判が続出しました。

運用直前に基準を一部変更するなどの措置がとられ、相談室としてもその動きを注視しておりましたが、当院では特に大きな混乱はなかったように思います。

制度の理解を広める活動としては、家族会のミニレクチャーにて社会制度の解説を行ったり、相談室だよりの作成を行いました。
知っているだけで、不安は随分と軽減されるものです。
今後も相談室では、このような活動を継続していきたいと考えています。

医療ソーシャルワーカーの援助により、他院から当院に転院した患者さんは48名、退院して自宅に戻ったり、施設に入所した患者さんは43名でした。
診療報酬の改定で、社会福祉士の行う退院援助が報酬で評価されるようになったことは、大変嬉しく思っています。

高齢化が進み、ここ旭川では様々なサービスや施設が利用できるようになってきました。
しかし、同時に制度やサービスが多様化・複雑化しており、何をどう選んでよいのかわからなくなってきました。

今後ますます入退院の援助の必要性は増してくると思われまます。
私たち医療ソーシャルワーカーとしては、今まで以上に的確な援助を目指し、日々努力していきたいと考えています。

相談室が行う相談業務は、入院や通院の相談、退院や在宅サービス利用の相談、施設入所や転院の相談、医療費や年金・生活保護受給などの経済的問題の相談、ショートステイ利用の相談、身体障害者手帳の取得や車椅子などの補装具受給のための相談、成年後見制度の利用を含む家族問題の相談、苦情対応や心理的な相談など、多岐に渡ります。
また、地域連携業務や家族会活動などの業務も行っております。

社会制度という定められた枠を利用して援助をしていくので、当然限界があります。
また、家族の援助を期待しても、援助できない家族もいるでしょう。
医療や介護と同様、社会福祉援助にも限界があります。

全ての人々が100%納得できる解決を得られない場合も多くありますが、可能な限りそれに近い結果を得られるよう、自己研鑽を重ねていきたいと思っています。

平成21年度 栄養課業務を振り返って

栄養課 管理栄養士 村田 聖子

《栄養管理》

患者の栄養状態を把握するためには栄養マネジメントが欠かせなくなり管理栄養士と他職種によるカンファレンスを医療病棟・介護病棟の患者実施

・栄養ケア・栄養管理計画の内容

入院時のODA（基礎）データ及びSGA（ファイル）を基に基礎代謝・必要エネルギー検査値・現状患者の病態・食摂状況・身体機能などを記録し、他職種と《医師・看護師・理学療法士・言語聴覚士・ケアマネージャー・ケアワーカー・管理栄養士》病棟にてカンファレンスし、問題点・課題などについてカンファレンスされ、医師は病態・今後の方針・経過報告を実施患者の嚥下機能を知るため歯科医師・X線技師・言語聴覚士・管理栄養士により造影検査も実施され評価し、カンファレンスの中で言語聴覚士のほうから報告されている他職種とカンファレンスすることにより、患者状態の機能及び生活レベルなどを知り、患者のQOLを踏まえたゴールをめざせるよう支援ができるようになった。

《給食管理》

患者の高齢化が進みレベル低下傾向であるが、継続した経口維持を希望者が多くいます。

経口維持継続を考え食事の形態も、ミキサー食・ミキサーの固形・軟菜のキザミ（とろみをつけたもの）軟菜・常菜と実施し、レベルに合わせた形態食の提供を実施。

現在の課題は肉の形態で柔らかく提供することで、酵素・調理の工夫方法など試作検討中でまだ完成はれていませんが継続中です。

新入職員の声

平成21年04月16日入社

富田 睦代（准看護師）

早いもので就職してから1年が経とうとしています。
1年経った今でも毎日緊張の連続で、悪戦苦闘の日々が続いています。

看護学校卒業後、3階で約1年間勤務させて頂きました。
医療の現場はいつも緊張があり、就職したばかりの頃は解らない事も多く、
一つ一つ覚えるのに毎日精一杯で不安も一杯でした。

しかし、先輩NSはもちろんの事、病棟スタッフの方々にも解らない事を
教えて貰ったり、困っている時は助けて頂きました。
そのおかげで1年間やってこれたと感謝しております。

憶える事も多く、日々勉強の毎日です。
その中でも患者さんとの何気ない会話などは、ホッと出来る時間になっていて、
パワーを貰う事も多いです。

忙しく業務に追われる事が多いですが、少しでも時間を作って関わっていき
たいと思います。

今年の3月からは4階へと移動になり、また新たな刺激をたっぷり浴びている
毎日です。
一步一步ではありますが、日々成長していきたいと思っています。

平成21年11月01日入社

石田 沙織（歯科衛生士）

私は、昨年10月に旭川高砂台病院歯科口腔外科に入社しました。
以前は、個人病院に勤務しており、ほとんど一般歯科での経験しかありません
でした。

口腔外科、入院患者さんの口腔清拭など、初めて経験させて頂くこと、改めて
勉強させて頂くことなど多々ありました。

その中でもわからないこと、苦手なことがありますが、自身の課題とし、努力
することを忘れず、日々患者さんと接する中で、ま他、先輩方の姿より学んで
いきます。

病院行事や、勉強会、委員会など参加したり、新たな環境で充実した毎日を
過ごしてこれたことに感謝の思いでいっぱいです。

まだまだ未熟ではありますが、与えられた仕事をやり抜き、自身の課題と向き
合いながら、向上心を持ってこれからも前に進んでいきたいと思っています。

平成22年03月01日入社

小河 秀子（主任介護支援専門員）

ご縁をいただいて3月1日に入職後、早くも4ヶ月が過ぎました。

介護支援専門員の仕事内容は理解していても、新しい環境の中で、初めてお会いするご利用者のご家族と新たなる関係を構築していかなければならない。

また同時に、職場でも周囲の方々に等身大の自分をみて頂き、気持ちを共有しながら業務を進められるように努めてきました。

そのなかで、自分が職場にいることを認めて頂き、所長を始めとした周囲の方々に助けて頂き、教えて頂きながら現在に至っていますことをありがたく感謝いたします。

周囲の方々に支えて頂いて自分の業務が成立していることを痛感します。

これから新たな意識で、ご利用者やご家族のお気持ちを推しはかりながら、どうしたら現状の改善をできるのか多方面から柔軟な姿勢で検討し、よりベストな状態で過ごして頂けるよう、旭川高砂台病院の職員として努めて参ります。

患者の状況

外来患者延数		医 科						菌 科	
年 月	実日数	全 外 来		眼科以外		眼 科		延人数	日平均
		延人数	日平均	延人数	日平均	延人数	日平均		
平成21年4月	24	1,167	48.6	990	41.3	177	7.4	240	10.0
5月	23	1,083	47.1	912	39.7	171	7.4	280	12.2
6月	24	1,092	45.5	943	39.3	149	6.2	371	15.5
7月	25	1,159	46.4	989	39.6	170	6.8	352	14.1
8月	25	1,141	45.6	948	37.9	193	7.7	318	12.7
9月	23	1,088	47.3	945	41.1	143	6.2	278	12.1
10月	25	1,148	45.9	983	39.3	165	6.6	322	12.9
11月	22	1,050	47.7	882	40.1	168	7.6	331	15.0
12月	24	1,182	49.3	1,023	42.6	159	6.6	369	15.4
平成22年1月	22	1,048	47.6	917	41.7	131	6.0	364	16.5
2月	22	1,048	47.6	895	40.7	153	7.0	336	15.3
3月	25	1,235	49.4	1,069	42.8	166	6.6	362	14.5
合 計	284	13,441	47.3	11,496	40.5	1,945	6.8	3,923	13.8

入院患者延数	2F (療養)	3F (介護)	4F (一般)	C棟 (介護)	合 計	2階平均	3階平均	4階平均	C棟平均	平均数
						2階稼働率	3階稼働率	4階稼働率	C棟稼働率	病棟稼働率
平成21年4月	1,330	1,434	1,279	715	4,758	44.3 96%	47.8 100%	42.6 85%	23.8 49%	158.6 82%
5月	1,376	1,467	1,201	731	4,775	44.4 96%	47.3 99%	38.7 77%	23.6 48%	154.0 80%
6月	1,387	1,424	1,124	746	4,681	46.2 101%	47.5 99%	37.5 75%	24.9 51%	156.0 81%
7月	1,454	1,458	1,217	892	5,021	46.9 102%	47.0 98%	39.3 79%	28.8 59%	162.0 84%
8月	1,381	1,475	1,254	909	5,019	44.5 97%	47.6 99%	40.5 81%	29.3 60%	161.9 84%
9月	1,350	1,410	1,220	863	4,843	45.0 98%	47.0 98%	40.7 81%	28.8 59%	161.4 84%
10月	1,401	1,470	1,167	939	4,977	45.2 98%	47.4 99%	37.6 75%	30.3 62%	160.5 83%
11月	1,382	1,431	1,228	961	5,002	46.1 100%	47.7 99%	40.9 82%	32.0 65%	166.7 86%
12月	1,426	1,438	1,259	997	5,120	46.0 100%	46.4 97%	40.6 81%	32.2 66%	165.2 86%
平成22年1月	1,426	1,447	1,318	964	5,155	46.0 100%	46.7 97%	42.5 85%	31.1 63%	166.3 86%
2月	1,268	1,292	1,118	891	4,569	45.3 98%	46.1 96%	39.9 80%	31.8 65%	163.2 85%
3月	1,382	1,422	1,155	993	4,952	44.6 97%	45.9 96%	37.3 75%	32.0 65%	159.7 83%
合 計	16,563	17,168	14,540	10,601	58,872					
1日平均	45.38	47.04	39.84	29.04	161.29					

本年度の目標と評価

【年度目標】

- ・「病院を好きになろう」

【年度目標に対しての評価】

病院全体の年間目標として、働く職員ひとり一人が職場（当病院）を好きになる事から始めた一年とした。

自分の職場を好きにならなければ仕事をしていても意欲・向上心がわかないし、職場を好きになるということは、そこで一緒に働く仲間を好きになる協調性が生まれ、療養しておられる患者さんを好きになる献身が生まれ、そして自分の責任ある仕事の満足・達成感につながると考え職員ひとり一人が職場を好きになる様、意識する年とし、病院側として職場環境改善（労働時間、健康管理、メンタルヘルス等）も含め目標達成に取り組んだ。

しかし一年を総括すると、意識調査では全体的に「職場を好きになる」という意識の向上はみられたが、個別では人員不足による過重労働・精神疲労を訴える者もあり、本来の目標としての達成度は低く今後の職場環境改善の継続が必要であるとの評価であった。

【看護部門目標】

- ・「和 輪 Working」
（和やかに 輪になって 仕事をしよう。心の 和 を持ちましょう。）

【看護部門目標に対しての評価】

自分がチームの一員であることを認識し、報告、連絡、相談による風通しを実行し、チーム力を向上させる事で、よりよい看護、介護を目指したが、途中、患者への言葉遣いや対応の荒さや人員不足による多忙を理由に、ささくれた言動も見受けられた。

結果、目標達成とは言えないが、自分たちの問題点を認識しカンファレンス等で検討することで、各自成長は見られたと思う。

今後も継続し、看護部全体が向上できるように、また、職員が穏やかに心の余裕をもって勤務できるようにしこりとなる問題点は出来るだけ残さず解消していきたい。

各委員会活動報告と問題点

★★★ 安全(事故防止)対策委員会 ★★★

委員長 岸本 彰久 (放射線科 主任)

21年度活動報告・・事故防止対策委員会

☆委員会 毎月第2水曜日、年間12回開催

☆勉強会 (2回開催)

・平成21年6月11日 (木) 17:30～18:30 デイケアホール
内容

- 平成20年度、事故報告書・ヒヤリハット報告書、総括
- 転倒転落事例における事故状況の分析
- 業務における確認作業の周知確認

・平成22年3月16日 (木) 17:30～18:30 デイケアホール
内容

- 主な医療ガスの種類と取り扱い上の注意
- 医療ガスにおける事故事例及びヒヤリハット事例

☆医療事故等収集事業への参加

- ・5月より参加

☆窓枠調査

- ・4月、10月に調査施行

☆事故防止だより

- ・年4回発行

☆問題点、課題

- ・今年度より機能評価機構の医療事故等収集事業の参加登録申請医療機関となったが、申請する内容の医療事故は0件であった。
報告する事故が無かったことは重大事例が無かったという事で良い事ではあるが、報告することを忘れないように、本来報告すべき事例が無かったのかを毎年再確認していく必要が有るのではないかと考える。
- ・当院での事故を誘発している原因として『確認不足』『思い込み』があげられる、特に輸液、投薬に関してはほとんどの事例でこの2点が原因となっている、又、他の事例でも確認不足が原因となる事例が多く見られた。
事故防止委員会でもこの1年間を『確認不足』『思い込み』の撲滅期間とし年間通して周知及び訴えかけを行った。結果として減らすことは出来たがやはり事故の1番の要因には変わりがなかった、引き続き周知徹底を行っていく必要があると考えられる。

★★★ 感染防止対策委員会 ★★★

副委員長 梅森 恵美（検査室 副主任）

【平成21年度活動報告】

- 1) 院内感染防止対策勉強会(全職員対象)
 - ・『創部の消毒について』
平成21年7月28日(火) (褥瘡対策委員会合同)
 - ・『肝炎ウイルスに対する感染防止対策について』
～B型肝炎汚染事故に対するワクチンとグロブリン～
平成22年1月28日(木)
- 2) 院外感染防止対策研修会参加
 - ・『感染対策～理学療法における感染予防』 参加者：理学療法士 加藤大悟
平成21年6月27日(土)
 - ・『中心静脈ポートは怖くない』 参加者：看護師3名
平成22年2月25日(木)
- 3) 家族会参加
 - ・『二次感染防止について』 講師：看護師 澤谷海美子
平成21年10月13日(火)
 - ・『ノロウイルス感染症の二次感染防止対策【家庭版】』を作成、配布する。
- 4) インフルエンザ予防接種推進
 - ・季節性インフルエンザと新型インフルエンザ、両ワクチンの接種推進
 - ・新型インフルエンザに対する感染防止対策周知
- 5) 感染防止対策に関する掲示物
 - ・『食中毒について』『ノロウイルスについて』掲示
- 6) サクシヨン時のヒビテンガーゼ廃止と吸い上げ精製水を水道水に変更
- 7) 速乾性手指消毒剤の管理見直し
 - ・使用量、使用期限の管理
 - ・外来正面玄関に手指消毒要請表示と速乾性手指消毒剤設置
- 8) 創部消毒処置院内統一
- 9) 中央材料室に関わる助手業務手順書の作成
- 10) HBVワクチン接種推進
 - ・職員全員対象の勉強会開催
 - ・HBs抗体陽性者リスト作成
- 11) 感染防止対策マニュアル改正
- 12) 職員トイレを含む全手洗い場所のペーパーホルダー設置

【問題点と今後の課題】

- ・感染防止対策マニュアルの周知不足
- ・全職員の医療従事者としての感染防止対策に関する知識向上
- ・病院機能評価取得

★★★ 褥瘡対策委員会 ★★★

委員長 佐々木 秀幸（リハビリテーション科 副主任）

人員構成

担当医師 井餘田医師
後見 浅井師長
委員長 佐々木 理学療法士
委員 2階 杉原 看護師・東元 介護士
3階・C棟 阪野 看護師・長谷川、上村（ひ） 介護士
4階 秋元 看護師・辻野 介護士

担当

広報担当・・・2階
役割内容 委員会便り（年1回）、マットレス管理（年2回）
勉強会担当・・・3階・C棟、4階
役割内容 勉強会の立案、準備、実施（年2回）

年度目標

「褥瘡予防、知識・技術の習得」 「発症0を目指す」

活動報告

平成21年

4月09日 第1回会議、褥瘡回診
5月14日 第2回会議、褥瘡回診
6月11日 第3回会議、褥瘡回診
7月09日 第4回会議、褥瘡回診
8月13日 第5回会議、褥瘡回診
第1回院内勉強会（7/28）実施報告、院外勉強会（7/24）報告
9月10日 第6回会議、褥瘡回診、マットレスチェック
10月08日 第7回会議、褥瘡回診
11月12日 第8回会議、褥瘡回診
12月10日 第9回会議、褥瘡回診

平成22年

1月14日 第10回会議、褥瘡回診
2月04日 第11回会議、褥瘡回診
3月11日 第12回会議、褥瘡回診、マットレスチェック、
委員会だより発行、第2回院内勉強会（2/16）実施報告

問題点

- ・褥瘡「発症0」の未到達。
- 傷に対する処置に完全な統一がなされていない。

★★★ 身体拘束廃止検討委員会 ★★★

副委員長 大藪 佑介（リハビリテーション科）

身体拘束廃止検討委員会

平成21年度 活動報告及び問題点

活動報告

- 1) 委員会の開催（月1回）
毎月の拘束状況の確認と廃止に向けての検討
拘束に関する問題や委員会の活動内容に関する検討
- 2) 勉強会の開催（年1回）
2月「高齢者虐待について」
- 3) 身体拘束マニュアルの見直しと変更
H21年度版 身体拘束廃止マニュアルを作成
- 4) 身体拘束指示・経過記録及びカンファレンスシートの作成
病院機能評価にて医師の指示書、医師・看護師による毎日の経過を記録しなければならない。そのため、医師の指示・医師・看護師の経過記録
身体拘束カンファレンスシートを統合し、身体拘束指示・経過記録及び
カンファレンスシートを作成、医師・看護師の協力のもとH22年度より
施行する。
- 5) 院外研修への参加
高齢者虐待についての院外研修会参加
H21年10月9日（金） 高齢者虐待防止研修会
H21年10月10日（金） 高齢者養介護施設従事者虐待防止研修会

反省と問題点

H21年度の拘束状況に変化は見られず、増えてはいないが減ってもいない状況です。

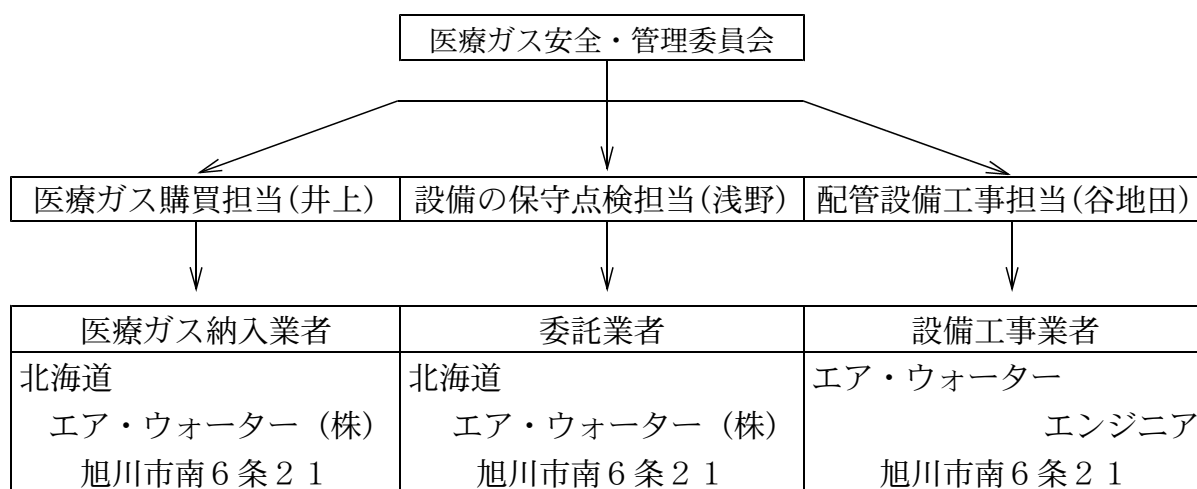
理由としては、治療上やむを得ない場合の事例が多いことが考えられます。やむを得ない場合に関しては、マニュアルに沿って医師の指示のもと、家族への説明と同意、毎日の経過記録を徹底し、解除に向け委員会内での検討と病棟でのカンファレンスを施行している。

しかし、職員の中には勝手に拘束をしているケースも多く、再度職員間で身体拘束に関する知識と意識の向上を図らなければならない。

★★★ 医療ガス安全管理委員会 ★★★

委員会の構成 監督責任者 井餘田
 実施責任者 山下（委員長）
 委 員 員 真岸、井上、中川、谷地田、浅野

活動報告 ①規定の作成 「旭川高砂台病院医療ガス安全管理規定」
 に基づき定める。
 ②緊急連絡網の再構築



- ③業務の確認
1. 医療ガスの保守点検
 2. 医療ガスの新設、増設、部分改修後の
使用前試験・検査
 3. 前2号に定める点検または
試験・検査の記録の管理保存
 4. その他医療ガスの安全点検
- ④医療ガスに関する知識の普及と啓発
1. 酸素流量カードの採用、導入（21年12月5日）
 2. 医療ガス講習会（院内学習会）の実施
（22年3月16日）
- ⑤外部講習会への参加
 北海道医療ガス保安講習会（21年11月20日 参加者浅野）

★★★ 施設設備防災委員会 ★★★

委員会メンバー（◎は委員長）
 ◎関本昌男、鈴木一章、谷地田哲夫

【目的】

施設設備の安全管理を行い、地震・火災・その他の災害が発生した場合に人的、物的被害を最小限に防止するため施設設備及び防災管理を徹底することを目的とする。

《活動内容》

- ・ 防災訓練及び防災マニュアル訓練についての企画検討、実施
- ・ 新入職員主体による消火設備取扱訓練実施（7 / 30）
- ・ 総合防災訓練（夜間想定）・災害マニュアル訓練実施（11 / 26）
- ・ 定期施設設備点検の実施

★★★ 労働安全管理委員会 ★★★

委員会メンバー（◎は委員長）

◎関本昌男、中川厚子、川島恵子、浅井真澄、西村麻美、栗山章枝、大類加津子、山下裕之、中野順子、井上英規、真岸伸好、岸本彰久、田村 博、樺澤康裕、山田正臣

【目的】

労働安全衛生法(昭和47年法律第57号)第19条の規定により、職場における安全と衛生の向上を図り、職員の正常な健康管理を通じ、業務能率の増進に反映することを目的とする。

《基本方針》

労働者の健康保持管理を基本として

職員及び患者の安全衛生を重点基本方針とする。

《本年度目標》

医療事故の発生を予防し、医療の質の確保及び安全な医療提供体制をはかるため病院長リーダーシップのもと、全職員がそれぞれの立場から問題に取り組む事故防止と信頼ある医療を提供する。及び院内感染予防の強化。

《本年度スローガン》

迅速な対応・報告そして的確な判断・処理

《活動内容》

- ・ 年度安全衛生計画の検討・立案実施
- ・ 職員健康、作業環境への取組
定期健康診断の実施及び有所見者（要治療・要精密検査・要再検・経過観察）の書類による追跡管理徹底の実施
ワークライフバランス（WLB：仕事と生活の調和）及びメンタルヘルス対策の強化
- ・ 交通労働災害への取組
警察本部交通部広報「交通安全情報」の院内LANによる定期掲示による交通安全啓蒙実践

★★★ 情報管理委員会 ★★★

委員会メンバー（◎は委員長）

◎関本昌男、井上英規、鈴木一章、八幡竜次

【目的】

診療録情報をはじめとするさまざまな院内情報に関する事項について検討・管理を行い適切な情報活用及び情報管理を行うことを目的とする。

《管理事項》

1. 診療情報（診療録・フィルム等）の様式・管理方法に関する事項
2. 診療情報の質向上、改善に関する事項
3. 医療情報の開示と秘密保持に関する事項
4. 医療情報の利用・活用に関する事項
5. 院内LANの有効活用に関する事項
6. サーバーおよびクライアントマシンのデータの管理に関する事項
7. その他の診療情報管理の改善と推進に関する事項

《活動内容》

- ・診療情報を患者と共有する取組として診療録開示申請に関する処理実施
- ・患者個人情報の利用目的についての説明及び利用目的変更、追加に関する処理実施
- ・「管理文書一覧」による病院発行管理文書及び外部文書の最新版管理（見直し更新）及び配布先管理の実施
- ・院内各サーバー及び末端機器の定期保守点検の実施
- ・院内各サーバー及び末端機器のセキュリティー強化の検討と実施

★★★ 広報委員会 ★★★

委員会メンバー（◎は委員長）

◎関本昌男、井上英規、樺澤康裕、鈴木一章、八幡竜次

【目的】

医療法人社団恩和会旭川高砂台病院の活動内容を内・外へ広報する実務を行うことを目的とする。

《活動目的》

- ・地域、利用者、職員への広報活動を通じて、自院のポジショニングを高める。
- ・病院広報の実務を担当している職員が、広報を現在の仕事のレベルアップに役立て、さらに広報の基本的知識を身につける。
（医療広告規制等を学びながら広報企画、広報文案・文章作成を行う）

《活動内容》

- ・ 広報活動について定期会議実施
- ・ 広報活動の評価と見直しの実施
- ・ その他の広報活動「点滴療法」の案内、「家族会」の案内
「相談室だより」掲載、「集団栄養指導」の案内及び実施

★★★ サービス推進委員会 ★★★

委員長 御家瀬 典文（放射線科 副主任）

委員会メンバー

- ◎ 御家瀬典文、大脇千春、三浦まき子、渡辺悦子、秦けい子、廣瀬明美、
藤岡彩香、伊藤春美、井上英規、新屋育子

《委員会の基本方針》

1. 「病院＝サービス業」の考え方の徹底
2. 存在意義のある病院づくり
3. 清潔で綺麗な環境づくり
4. 正しい言動の実現
5. 第一に患者さんやそのご家族へのサービスを・・・

《活動内容》

- ① 新人研修 ～ H 2 1 年 4 月実施
- ② 意見箱「あなたの声をお聞かせ下さい」の管理
- ③ クレーム受付簿の管理～クレームから外来トイレの
ウォシュレットの設置が実現した。
- ④ 「委員会掲示板（渡り廊下、外来の2カ所）」の管理
- ⑤ 接遇教育研修会の企画及び開催 ～ H 2 1 年 0 8 月「接遇研修会」実施
- ⑥ 各種調査の実施
 - ・ 患者満足度調査（外来） ～ H 2 2 年 0 3 月 実施
 - ・ 外来待ち時間調査 ～ H 2 1 年 1 2 月 実施

《問題点と今後の課題》

クレームの報告に偏りがあり、きちんと報告されていない部署もあると考えられる。

クレーム対応票の書式や対応手順を見直し、クレームがきちんと報告されるよう徹底するようにしたい。

また、接遇研修のあり方についても再検討し、より効果的な研修を実施していく。

患者満足度調査は、質問項目を減らして、より答えやすく集計しやすい内容に改める。

★★★ 記録監査委員会 ★★★

委員長 川島 恵子 (外来部門 副師長)

1. 定例会議 (毎月第3火曜日 12:30~13:30)

委員長若林医師を中心に外来1名、病棟より2名、事務部門2名選出し、月1回の定例会議を行う。

外来業務の関連で開始時間を12:30からに変更し、毎月開催出来るよう、医師初め他の委員に協力して貰い、たとえ短時間でも毎月開催してきた。

今年は、医師記録の監査も委員会で手がけ、結果を医師にフィードバックした。今後も続けて行く予定であるため、記録の充実に繋がるよう関わっていきたい。

看護記録の監査を定期的(年2回)に行っている。

まだまだアセスメント・プランの充実にかけられているのが現状である。

今年度は学習会の開催も出来ず、委員会活動としては不足な部分が目立つ。

あきらめと反省を感じる一年であった。

看護記録を充実するためには、良い看護が提供されていなければならない。

今後、委員会として記録に繋がる援助が出来るよう、委員会活動をしっかり行っていききたい。

★★★ 教育委員会 ★★★

基本方針 1 社会の動きに関心を持ち、看護、介護が果たす役割を展開し、根拠のある看護、介護が実践できる人材を育成する。

2 人として豊かな心を持ち、関わる意義を知る。

目的 1 自己啓発

2 科学的根拠のある看護、介護サービスの提供

目標 1 知識、技術、心の向上

2 倫理観の育成

3 専門職としての責任とプライド

4 患者満足度の向上

教育計画

項 目	テ ー マ	対 象	時 期
新規採用 オリエン テーション	<ul style="list-style-type: none"> *病院の理念、方針、目標 *看護部の理念、方針、目標 *患者様の権利 人権 *感染予防（基礎） *事故防止（基礎） *接遇 	新規採用者	1ヶ月 以内
卒後1年目 コース	<ul style="list-style-type: none"> *急変時の対応 *事故防止 *感染防止 *医療安全対策 *記録 *看護計画 	新卒者 プリセプターによる 現場教育	1年 以内
基礎コース	<ul style="list-style-type: none"> *記録 情報収集とアセスメント 能力の向上 *救急 急変時の対応と実践 呼吸器管理 救急カート *褥瘡管理 *事故防止 *感染防止 *接遇研修 	看護職全員 中途採用者 師長が必要と判断した者 看護職全員 看護職全員 看護職全員 全職員	定期 適時
専門コース	<ul style="list-style-type: none"> *透析看護 *口腔外科管理 *手術管理 *内視鏡管理 *介護保険 	師長が必要と判断した者 専任職員 ケアマネージャー	適時
卒後3年目 コース	<ul style="list-style-type: none"> *リーダーシップ *看護課程と看護の視点 *根拠のある看護実践 		年1回
卒後5年以上	<ul style="list-style-type: none"> *プリセプターシップ *指導能力育成 *看護管理 		年1回
自己啓発コース 院内	<ul style="list-style-type: none"> *テーマ別学習会 人工呼吸器 疾患 心電図 	看護職全員	定期 適時

項目	テーマ	対象	時期
自己啓発コース 院外	* 社会の変化に対応した 医療サービスが提供でき、 専門性を高める。	師長が必要と判断した者	適時
看護研究	* 院内研究発表 * 院外研究発表	看護職全員 院内発表に於いて 師長の承認を受けた者	10月 適時
管理職コース	* 看護管理 * 指導 教育 * 評価について	主任以上	3月
介護研修	* 患者の人権 権利 * 私たちの役割 * 介護法 * 事故防止 感染防止	介護職員	年2回
看護助手研修	* 患者の人権 権利 * 効率的な業務展開 * 事故防止 感染防止	看護助手	年2回

4月	新規採用者オリエンテーション 卒後1年目コース研修開始
5月	看護助手研修 介護研修
6月	学習会 卒後3年目コース
7月	卒後5年以上コース
8月	基礎コース
9月	学習会
10月	研究発表
11月	看護助手研修 介護研修
12月	基礎コース
1月	学習会
2月	基礎コース
3月	管理職研修
褥瘡対策・・・年2回 事故防止・・・年2回 感染防止・・・年2回 抑制廃止・・・年2回 専門コース（外部研修、年3～4回）	

各コースのねらいとカリキュラム

新規採用 オリエンテーション	旭川高砂台病院の職員として、病院理念 方針 目標を知る。 看護部の一員として、看護部理念 方針 目標を理解し、 自己目標を立案、目的をもった業務が出来るようになる。 医療人としての倫理 人権などを理解する。 感染防止、事故防止に努め、安全に業務を行えるように導く。 研修後レポート提出にて確認
卒後1年目コース	職場への適応力を養い、専門職としての意識、知識、技術を 磨き 自己成長を促します。 研修後レポート提出にて確認
基礎コース	専門職として、情報収集とアセスメント力を磨き、根拠に 基づいた 看護プラン、看護援助を行い、規定に沿った記録が 出来るようになる。 専門的知識を深め、業務に活かせるように指導します。 研修後レポート提出にて確認
専門コース	より深く知識を習得し、専門職としてのプライドを磨きます。 習得した知識や技術を自らが指導できるようになります。 研修後レポート提出にて確認
卒後3年目コース	チームの中堅としての自覚を促し、リーダーシップをとれる ように 指導します。 看護の視点と看護過程を考え、効果的な援助が出来るよう になります。 研修後レポート提出にて確認
卒後5年以上	指導能力を育成し、プリセプターシップについて学びます。 研修後レポート提出にて確認
自己啓発コース	医療サービスに必要な知識を深めたり、再確認し、社会の 変化に適応した医療サービスが提供できるように学びます。 研修後レポート提出にて確認
看護研究	症例研究、事例研究をとおり、学びます。 定期の院内研究発表があります。
管理職コース	病院、看護部方針を理解し、管理者としての認識を持ち、 質の高い看護サービスを目指し、自己能力の拡大を計ります。
介護研修	介護の専門職としての能力、技術の向上をめざし、質の高い 介護サービスを提供できるように学びます。 研修後レポート提出にて確認
看護助手コース	チームの一員として自覚し、役割を理解できるように学び ます。 研修後レポート提出にて確認

研修記録

- 4月02日～03日 新人研修：基礎コース（教育委員会）
6月02日（火） 当院の倫理：管理コース（院長）
6月11日（木） 平成20年度事故報告・ヒヤリハット報告、総括
：委員会（事故防止対策委員会）
7月28日（火） 創部の消毒について：委員会（褥創対策委員会）
8月06日（火） 接遇研修会：委員会（サービス推進委員会）
8月06日（火） 透析と認知症：専門コース（透析室）
11月26日（木） 透析患者のフットケア：専門コース（透析室）
1月28日（木） 肝炎ウイルスに対する感染防止対策について
～B型肝炎汚染事故に対するワクチンとグロブリン～
：委員会（感染防止対策委員会）
2月02日（火） 高齢者虐待について：委員会（身体拘束廃止委員会）
2月05日（金） 輸血副作用防止対策：基礎・専門（薬局）
3月02日（火） 褥創と体交時に使用する枕について
：委員会（褥創対策委員会）
3月16日（火） 主な医療ガスの種類と取り扱い上の注意
～事故事例とヒヤリハット事例～
：委員会（事故防止対策委員会）
3月25日（木） 倫理、労働条件、個人評価、自己評価、目標
：基礎・管理・委員会（院長）

問題点と課題

各委員会でそれぞれの学習会を行っているが、看護部新人コース向けの技術の向上や急変時の対応に関しては教育委員会全体の学習会ではなく、各階のスタッフに委ねていることが多い。

そのため各階で新人の成長度合いにばらつきが目立つ事を感じる。

各階の特徴や業務内容によって成長度が違うのは仕方がないことではあるが、スタッフみんなが同じレベルの看護を提供できるようにしていくことが望ましい。

そのため、各階での来年度は基礎看護コースの統一性と充実を図るとともに委員会としてもスタッフ全体のレベルアップを図るよう努力していく。

研究発表会報告

平成21年10月15日(木) 第8回(前期)

1. 利用者が主役となるプロジェクト(デイケア)
2. 身体拘束廃止に向けての取り組み(2F)
3. 当院における車椅子の現状
～判定、適用、メンテナンス、その後のフォローアップ(リハビリ)
4. オリジナル介護マニュアル作成(3F)
5. 透析時抜針事故防止対策の工夫(透析室)
6. 社会資源としてのグループハウス～市内の実態調査より
(相談室・居宅支援事業所)

平成21年11月05日(木) 第8回(後期)

1. 糖尿病患者への継続的な栄養指導の試み(検査室・栄養課)
2. 五年間の保険改正と当院の売上げ統計について(事務)
3. 呼吸器装着患者の入浴を試みて(4F)
4. 当院での嚥下造影検査(VF)3年間のまとめ
(歯科・放射線科・栄養課・ST)
5. 内服を確実にしていただくための支援を試みて(外来)
6. 擦式アルコール製剤を用いたラビング法による
術前手指消毒法の評価について(中材・薬局・眼科)

合同カンファレンス報告

平成21年04月03日(金)

主催 リハビリテーション科

議題 リハビリカンファレンスについて

結論 カンファレンスシートの事前回覧による効果的な使用方法の検討
総合実施計画書への同意のサインについては、リハにて家族、本人に
説明(平日来院不可の場合は電話)同意、サインを得る。

平成21年05月02日(金)

主催 栄養課

議題 災害時用患者備蓄品について

結論 現況備蓄品のリスト検討による必需品目の確認(100名×3日分)
災害時業者間との最優先契約を依頼する事とする。

平成21年06月05日(金)

主催 デイケア・居宅介護支援事業所

議題 デイケアにおけるバイキング形式の食事の提供方法の検討、宣伝効果

平成21年07月03日(金)

主催 透析室 臨床工学技師

議題 当院における医療機器と3Pコンセントの現況について

結論 3Pコンセントの定義とマイクロショックやノイズ問題の対処法、改善箇所、導入箇所の検討、適切な使用法の周知

平成21年08月07日(金)

主催 事務室

議題 社会保険療養担当者集団指導での注意事項と
介護保険点数改正の影響について

結論 参考資料による医師、看護師への周知

平成21年09月04日(金)

主催 放射線科

議題 放射線科の現況と問題点の抽出、件数増加への検討

結論 入院時検査の指示依頼と定期検査の検討

平成21年10月02日(金)

主催 2階病棟

議題 介護、療養病棟における、PEG患者以外の患者の定期検査について検討

結論 定期検査の組み方とルールの設定、
検査後の家族説明は異常があったときとする。

平成21年11月06日(金)

主催 3階病棟

議題 21.4.10の介護保険見直しについての情報提供

結論 医師の意見書の特記事項の書き加えの必要性について医師に理解を求め、今後、現場から必要な情報を提供し、医師に特記事項として記載して頂く事とする。

平成21年12月04日(金)

主催 4階病棟

議題 看護業務の充実化をはかるための入院時の
アナムネーゼの患者、家族への記入依頼と他医療機関、
施設からの寛恕情報提供の呼びかけについて

結論 現行用紙の不足部分の検討と入院時間診票の作成、
使用の手順について検討

平成22年03月05日(金)

主催 外来・眼科

議題 救急外来対応状況について

結論 救急外来対応状況と受け入れを断った症例の報告
原則、当院においては依頼があった場合はすべて受け入れる方針ではあるが、患者の状態を最優先に考え、患者の利益になるように判断、行動する。

家族会の一年

平成21年度「家族会」の1年を振り返って 【医療福祉相談室】

開催日	レクチャー内容	参加者人数	家族（世帯）数
4月14日（火）	家族会3周年記念公開講演会 「知って得する漢方 ～漢方を正しく理解するために」 講師：院長	23名 22名（一般）	21家族
5月12日（火）	「4月からの制度変更について」 講師：樺澤 （医療ソーシャルワーカー）	20名	17家族
6月09日（火）	「血液透析のお話②」 講師：山下主任（臨床工学技士）	9名	7家族
7月14日（火）	「高額介護合算療養費について」 講師：樺澤 （医療ソーシャルワーカー）	18名	14家族
8月11日（火）	「お口とカラダの健康について」 講師：加藤医師（歯科口腔外科）	6名	6家族
9月08日（火）	「目の健康について」 講師：澤木医師（眼科）	11名	9家族
10月13日（火）	「感染予防について」 講師：澤谷看護師（感染対策委員会）	7名	5家族
11月10日（火）	「成年後見制度について」 講師：清野 （医療ソーシャルワーカー）	9名	8家族
12月08日（火）	「心臓のお話」 講師：齊藤医師（内科）	7名	6家族
1月12日（火）	新年会	9名	7家族
2月09日（火）	「介護保険施設とケア付き住宅」 講師：樺澤 （医療ソーシャルワーカー）	11名	9家族
3月09日（火）	懇談会	6名	6家族
合計 12回開催		（ 158名 ） （ 136名 ）	← 一般含む ← 家族のみ

平成18年度から始めた家族会も、4年が経過しました。

平成21年度は全12回の開催で、参加者は延べ人数で158名。
昨年度よりは減少しましたが、出席者が“ゼロ”ということはなく、開催し続けることができ良かったと思っています。

平成21年度も、それまでと同様に、「病院スタッフによるミニレクチャー」と「茶話会」という形式で会を進めてきました。
4月には昨年に引き続き一般市民に参加を呼びかけ、「家族会 3周年記念公開講演会」として、院長の講演会を行いました。

“漢方”という関心が高いテーマだっただけに、平日にもかかわらず22名もの一般参加者が来場され、大変満足していただいたものと考えています。
また、1月には新年会、3月には懇談会として、ミニレクチャーなしの家族会も行い、集まったご家族の親睦をより深めることができたと思います。

政権が代わり、介護療養病床の廃止は凍結となりましたが、あくまでも“凍結”であり、廃止案がなくなった訳ではありません。
医療や介護・福祉の政策は、目まぐるしく変化しており、ご家族の不安は尽きません。

家族会は、そんな不安が少しでも解消されるような場であることを願っています。

家族会の活動を通じて、ご家族の不安が解消され、ご家族同士の親睦が深まり、ご家族と病院の相互理解が深まる。
そんな家族会を目指して、今後も活動を継続していきたいと考えています。

(医療ソーシャルワーカー 樺澤康裕)

手術件数と内訳

1、外科・整形外科

血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	5 件
内シャント設置術	2 件
内シャント血栓除去術	1 件
四肢の血管拡張術・血栓除去術	1 件
顎関節脱臼非観血的整復術	1 8 件
骨折非観血的整復術（手）	1 件
骨瘤除去手術	2 件
四肢切断術（下腿）	1 件
関節脱臼非観血整復術（肩）	1 件
関節脱臼非観血整復術（小児肘内障）	1 件
骨折観血手術	3 件
胃瘻造設術	4 件
経皮的胆管ドレナージ	1 件
胆嚢切除術	1 件
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ粘膜切除術	1 件
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術（その他）	3 件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	1 件
包茎手術（背面切開術）	1 件

計 4 8 件

2、眼科

角膜強膜異物除去術	1 件
角膜強膜縫合術	1 件
硝子体切除術	8 件
結膜腫瘍手術	1 件
翼状片手術（弁移植）	5 件
眼瞼結膜腫瘍手術	1 件
眼瞼内反症手術	5 件
網膜復位術	1 件
水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	1 件
水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）	1 1 1 件
眼瞼下垂症手術（眼瞼挙筋前転法）	3 件
眼瞼下垂症手術（その他）	1 件
網膜光凝固術（通常）	8 件
網膜光凝固術（その他）	7 件
緑内障手術	1 件
硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織）	1 件
硝子体茎頭微鏡下離断術（その他）	3 件

計 1 5 9 件

3、口腔外科

顎堤形成術・簡単なもの	1件
抜歯術	1件
	計2件

3、内視鏡検査件数

胃・十二指腸	68件
気管支	9件
大腸（上行結腸及び盲腸）	9件
大腸（S状結腸）	4件
直腸	6件
喉頭	1件
	計97件

死亡者統計と死因分析

月毎死亡者数

平成21年04月	7名
05月	5名
06月	1名
07月	7名
08月	5名
09月	5名
10月	5名
11月	6名
12月	5名
平成22年01月	5名
02月	6名
03月	8名

直接死亡原因

肺炎	18名
癌	10名
心不全	7名
心筋梗塞	1名
腎不全	6名
消化器	4名
その他呼吸器	7名
その他	12名

合計死亡者数

65名

ヒヤリハット・事故報告分析

平成21年度事故報告・ヒヤリハット報告分析

事故防止対策委員会

☆事故報告

◎事故件数

・与薬、投薬	58件
・注射、輸液	33件
・医療処置	10件
・療養上の世話	17件
・食事	7件
・検査	8件
・ドレーン、チューブ管理	14件
・物品	1件
・針刺し	3件
・その他	13件

計164件

◎患者影響レベル

・レベル0	10件
・レベル1	124件
・レベル2	18件
・レベル3	12件
・レベル4	0件
・レベル5	0件

◎部署別提出数

・医局	1件
・病棟	131件
・外来（各種外来）	24件
・他部門看護部	3件
・診療部	9件
・事務部	2件

計170件

※同一事例で複数者提出事例があるので事故件数より多くなります

☆ヒヤリハット報告

○1・医療行為に関するもの

1-1 治療・処置	4件
1-2 手術	0件
1-3 チューブ類管理	4件
1-5 投薬・注射	9件
1-6 検査	8件
1-7 指示・情報伝達	1件
1-8 その他	3件

29件

○2・患者自身に関するもの		57件
2-1 転倒・転落	51件	
2-2 私物の紛失	1件	
2-3 その他（患者自身）	5件	
○3・管理に関するもの		3件
3-1 機器・設備の故障	1件	
3-3 その他	2件	
○4・接遇に関する物		0件
○患者の行為に関するもの		3件
5-1 無断離院	1件	
5-2 患者同士のトラブル	2件	
○食事に関する物		12件
6-1 誤嚥・誤飲	2件	
6-3 誤配膳	7件	
6-4 異物混入	3件	
		計104件

☆考察

- ・今年度は昨年度の事故、ヒヤリハットの多くの原因となった『確認不足』『思い込み』を減らす事を目標に周知指導を行った。
結果的に減らす事は出来たが、相変わらず事故の起きる一番の原因と成っている事には変わりはない。
来年度以降も引き継ぎ周知を徹底し指導を行っていく。
又、ヒヤリハットでは半数を転倒転落が占めている、当院の患者層を考えると転倒転落が多く発生することは容易に推測できる。
委員会としては日頃の見守りの強化を図って行くと共に転倒転落が起きた際に骨折等の重大事故へ発展しない為の予防策の定期的な見直し及び新たな方法の構築の必要があると考える。

八宝祭報告と問題点

■ 第10回 八宝祭 ■

◎日時 平成21年8月30日（日） AM10時～PM2時

◎本年の方向性と戦略

本年の実行委員は、当院の全主任の快諾とともに、真岸がリーダーを努めさせていただきました。

毎年各部署よりの選出担当によりの委員のもと、新企画を練るのですが、今回はリーダーの意図で、今後のマニュアル作りと楽しむ為のお祭り企画の為の足跡作りの為、従来とは違った流れにさせていただきました。

- ・とにかくコンパクトな祭りをめざしました。
- ・例年の人気コンテンツを中心に展開しました。
- ・広域チラシにたよらず、地域町内会を中心にPRした。
- ・バザーは過去人気アイテムよりの徹底絞込みとした。
- ・各主任が率先して行動した、(汗を流した。)

◎特設ステージ

内容一新しました。従来の吹奏楽、よさこいも押さえながら、フォーク系・ライブ、ベリー・ダンス等で賑わいを演出する事ができました。

◎もちつき隊

本年は、ふかしから自前で実施し、完璧なもちつきに成功し、おいしく食べていただけたと思います。

メンバーは勿論精鋭の立候補でした。当院の祭りの花形でした。

◎青空市場

恒例のテント市です。こちらも精鋭メンバーでした。完売でした。

◎健康チェックコーナー

外来、歯科、眼科中心の専門チームで構成しました。

院内で新しい患者発掘に貢献してくれました。

◎バザー

栄養課も参画して例年の鉄壁チームで臨みました。

天候により、冷物一部振るわなかったものもありますが、ほぼ完売です。

◎患者さん連出し隊

本年も大活躍でした。事前ディスプレイも連出し隊の功績です。

◎縁日

綿飴の達人がいた様です。来年も期待出来そうです。

◎会場・駐車場係

当日一番走りまわってくれたと思います。影の立役者です。

大変だったとは思いますが、楽しめたと思います。

見るより参加したほうが、楽しい。そんな祭りをまた来年も実施します。

自己ステップアップ成果者報告

- 樺澤 康裕(MSW) …… ソーシャルワーク関連知識の習得
 清野 未央(MSW) …… 日本医療事務協会主催「保険請求事務技能検定試験」合格
 加藤 大悟(PT) …… 3学会合同呼吸療法認定士資格取得
 筒井 宗弘(PT) …… PT実習生指導
 吉岡 和子(デイケア) …… 介護支援専門員(ケアマネージャー)資格取得
 松澤 篤 (デイケア) …… 介護福祉士資格取得
 浜野 敏明(デイケア) …… 介護福祉士資格取得
 木谷 晶代(デイケア) …… 手芸作品づくりの継続

入職者・退職者 一覧

入職者

平成21年04月01日	小玉 ナナ子 (看護師)
	齋藤 英明 (医師)
	加藤 卓己 (歯科医師)
	小田島 みづき(看護助手)
	後藤 亜李沙(看護助手)
	澤田 知里(看護助手)
	金田 浩明(看護助手)
	片桐 士幾(准看護師)
	笠島 奈津美(看護助手)
平成21年04月07日	山森 由佳(准看護師)
平成21年04月16日	富田 睦代(准看護師)
平成21年05月07日	高橋 素子(病棟クラーク)
	押切 玲子(看護師)
	戸田 香奈(看護師)
平成21年05月26日	田村 恭子(看護助手)
	三浦 恵(介護職員)
平成21年06月01日	吉良 友亨(看護師)
平成21年08月01日	浅井 明美(准看護師)
	由田 絵美(介護福祉士)
平成21年08月10日	大辻 美紀子(介護福祉士)
平成21年09月01日	川守田 政博(看護師)
平成21年09月16日	高橋 美代子(介護職員)
平成21年10月26日	菅原 玲司(介護職員)
平成21年11月01日	石田 沙織(歯科衛生士)
	藤井 隆康(介護福祉士)
平成22年02月01日	三宅 暁子(看護師)
平成22年02月15日	鈴木 伸恵(准看護師)
	山岡 悟子(看護師)
平成22年03月01日	中野 文香(准看護師)
	佐藤 由佳(看護助手)
	城丸 典子(病棟 婦)
	小河 秀子(主任ケアマネ)
平成22年03月10日	菅原 絵里(介護職員)

退職者

平成21年04月10日	原 剛 (介護職員)
平成21年04月21日	山本 津香沙(視能訓練士)
平成21年04月29日	岩部 麻希子(看護助手)
平成21年04月30日	水口 美知子(准看護師)
平成21年05月09日	吉田 尚美(介護福祉士)
平成21年06月30日	三上 奈津子(准看護師)
平成21年07月15日	杉尾 紀江(准看護師)
平成21年07月31日	辻野 はるみ(介護職員)
	小玉 ナナ子(看護師)
	松崎 郁巳(介護福祉士)
平成21年08月15日	廣瀬 明美(介護職員)
平成21年08月31日	山口 千代子(介護職員)
	仲鉢 麻希(准看護師)
	番場 えりか(歯科衛生士)
平成21年09月30日	阿部 静子(介護職員)
	阪本 弘樹(デイケア職員)
平成21年10月10日	佐藤 佳津子(准看護師)
平成21年10月20日	田中 育子(歯科衛生士)
	大辻 美紀子(介護職員)
平成21年10月31日	河端 真衣(准看護師)
平成21年11月30日	木谷 玲子(准看護師)
平成22年01月25日	山本 香奈(介護補助者)
平成22年03月07日	黒田 英人(介護支援専門員)
平成22年03月10日	加藤 由美子(看護助手)
平成22年03月15日	東元 真純(介護職員)
平成22年03月31日	河岸 京子(介護職員)
	御家瀬 典文(放射線技師)
	山下 朋子(看護助手)
	鹿野内 理紗(看護助手)

計 33名

計 29名

サプライヤー一覧

株式会社 ほくやく 旭川支店	旭川市秋月2条2丁目5番22号	TEL(0166)47-1311 FAX(0166)47-3131
株式会社 スズケン 旭川支店	旭川市永山3条5丁目2-7	TEL(0166)47-1166
株式会社 モロオ 旭川営業所	旭川市流通団地2条4丁目18番	TEL[1](0166)46-5253 TEL[2](0166)46-5254
株式会社 ムトウ 旭川支店	旭川市1条通19丁目355番地2	TEL(0166)32-6111 FAX(0166)34-0202
株式会社 常光 旭川支店	旭川市旭神3条4丁目1-8	TEL(0166)69-3333 FAX(0166)69-3456
株式会社 竹山 旭川支店	旭川市秋月2条2丁目5-22	TEL(0166)73-3011 FAX(0166)47-5311
株式会社 エムイー器械	旭川市神居3条12丁目1-6	TEL(0166)60-1500
渋谷メディカル 株式会社	旭川市大町2条5丁目	TEL(0166)59-5700 FAX(0166)59-5701
北海道エア・ウォーター株式会社	旭川市南6条通21丁目1978番地	TEL(0166)34-7868 FAX(0166)31-9299
東レ・メディカル株式会社	札幌市中央区北1条東2-5-2 札幌泉第2ビル4F	TEL(011)251-2233
株式会社 岸本医科学研究所 旭川	旭川市忠和6条7丁目1-26	TEL(0166)63-1596 FAX(0166)63-1907
株式会社 木本動力工業所	旭川市永山町6	TEL(0166)48-1246 FAX(0166)47-6733
朝日テクノス株式会社 旭川営業所	旭川市台場2条3丁目2番10号	TEL(0166)61-8871 FAX(0166)61-9487
カンエイ実業 株式会社 旭川営業所	旭川市北門町22丁目2168-228	TEL(0166)55-5757
高張電機工業 株式会社	旭川市10条通20丁目3番地の1	TEL(0166)31-3493 FAX(0166)31-3494
五光トータル防災 株式会社	旭川市9条通13丁目右1号	TEL(0166)23-1932 FAX(0166)25-4747
株式会社 北海道日立ソリューションズ	旭川市豊岡14条6丁目8番8号	TEL(0166)34-6000FAX(0166)34-5888
三菱電機ビルテクノサービス株式会社	旭川市4条通9丁目	TEL(0166)25-1800
寺岡ファシリティーズ 株式会社	旭川市東4条10丁目2-4	TEL(0166)22-9626 FAX(0166)22-9541
株式会社 ナシオン オートファクトリー	旭川市永山10条1丁目	TEL(0166)26-1221 FAX(0166)26-2228
トキコ テクノ株式会社 旭川営業所	旭川市流通団地3条4-24	TEL(0166)49-2636 FAX(0166)46-4625
株式会社 大西洋行	旭川市春光4条5丁目1-3	TEL(0166)51-2611 FAX(0166)52-1910
ホシザキ北海道 株式会社 旭川南営業所	旭川市神楽岡5条6丁目3-3239 旭祥ハイツ1階	TEL(0166)66-0510
ワタキューセイモア 株式会社	小樽市新光5-13-3	TEL(0134)54-6525 FAX(0134)54-6580
有限会社 牧野クリーニング店	旭川市8条通15丁目左8	TEL(0166)23-8421
北海道国洋 株式会社	札幌市東区北12条東11丁目4-17	TEL(011)704-2210
前田印刷 株式会社	旭川市豊岡3条6丁目2-19	TEL(0166)34-0111
株式会社 富貴堂ユーザック	旭川市旭神3条4丁目2番9号	TEL(0166)68-2626 FAX(0166)68-2660
有限会社 近藤商会	旭川市流通団地1条3丁目	TEL(0166)40-2222 FAX(0166)47-2100
ホクトライティング 株式会社	旭川市南5条通23丁目1975	TEL(0166)32-4882 FAX(0166)32-4900
OSビジネス.net	旭川市豊岡3条2丁目1-24	TEL(0166)37-4855 FAX(0166)37-4856
有限会社 高砂輪業	旭川市神居2条8丁目2-17	TEL(0166)61-1343

職員 随想（お題：あなたの趣味を聞かせて下さい）

『私の趣味』

2階病棟 清水 真弓

私の趣味はガーデニングです。

遅い雪解けを待った花の芽が出てから、花を中心とした忙しいながらも充実した生活が始まります。

厳しい冬を乗り越えて、元気に顔を出す芽は愛おしく、今年はどんな庭になるのかと期待が膨らむ楽しい始まりです。

そして、4月。

庭にクロッカス、水仙、チューリップが咲き出す頃、自然豊かな旭川の近郊でも大地が目覚め、沢山の春を見つけることができます。

若草色のフキノトウや金色に輝くヤチブキ、ザゼンソウ。

5月、山々は、芽吹いた木々で美しい春モミジとなり秋の紅葉にも負けない美しさを見せてくれます。

男山自然公園の、山全体がピンクに染まるカタクリの感動の乱舞、嵐山の北邦野草園では、エゾエンゴサクやニリンソウから始まり、シラネアオイの群落など、次々と途切れることなく花が咲き、運がよければ天然記念物のクマゲラをみることのできる場所です。

神楽岡公園や旭山の満開の桜、江丹別の牧草地のタンポポ畑、真っ白なソバ畑はどこまでも広く、西神楽の段々畑の美しさ。

こうして、四季折々の自然の力強さや優しさに触れるのも、私の大切な癒しの時間となります。

また、街路樹のナナカマドの赤い実や金色に輝くイチョウ並木の美しさ、高くそびえたつ大雪山連峰や十勝岳連峰の雄大さに感動するのは、わたしだけではないでしょう。

庭は日々華やかになっていきます。

雑草を抜き、咲き終わった花を摘み、生き生きと咲ける場所を探し植え替え、アブラムシや毛虫を取り除き、手をかけ育てた花たちです。

どの花も愛おしく思えますが、特に娘や主人からプレゼントされた花が、今年も咲いたのを見るのは嬉しいものです。

今の時期になると、毎年カーラント酒を造ります。

赤い実のカーラントは、そのまま美しい赤い色のお酒になり、冬の間主人の楽しみになります。

こうして、花だけでなく実も楽しんでいるガーデニングですが、その時々庭の様子や可愛く咲いた花、素晴らしい自然の美しさを記憶するため、カメラを持つようになりました。

デジカメで様々なアングルからベストショットを狙います。
写した画像は、パソコンに入れ保存していましたが、ブログを始めるようになり、自分だけの楽しみだったガーデニングが、花だけでなく、美味しいお料理のレシピ交換や各地の情報交換など、幅広くコミュニケーションをとる趣味になっています。

そして、花が咲いたらきれいだと誉めてくれ、景色のきれいなところへ連れて行ってくれる主人のおかげで、私の趣味は充実したものになっています。
娘達も独立し、ささやかな夫婦二人の生活ですが、生活を潤してくれる楽しみを共有し、共感してくれる主人に感謝したいと思います。

『趣味について』

3階病棟 川守田 政博

私の趣味のひとつに演劇があります。
芝居は、観るのも好きだし、時々役者として舞台に立つこともあります。

25歳位のときに友人に劇団の手伝いを頼まれ、音響をやり、その後、役者としても参加するようになりました。
現在も年に2本位スタッフや役者として関わりを持っています。

普段は、月に数回集まり発声や本読みなどを行っています。
公演の予定が決まるとその1～2ヶ月前から稽古に入ります。
脚本ができると、読み、たち稽古、通し稽古などを経て一本の芝居が完成します。

稽古は、楽しいですね。
ひとつのものを作るために大勢の人が自分のできることを発揮していく。
それは、一人ひとりの意思の表現であるとともに、全体の力の集結というか宇宙戦艦ヤマトが波動砲を発射するような、大きな力を感じます。

脚本に沿って演出家の方向性を理解し、役者のときには、演技を通して自分の役目を果たす。
ひとつの芝居が完成して、お客さんに観て貰えた時は、とてもうれしいです。
お客さんが笑ったり、泣いたり、心を動かしてくれたときは、稽古で毎晩遅くまで追い込まれたことも吹っ飛びます。

劇団というのは、ひとつの会社みたいなところがあります。

演出家の目指すものを芝居という形を使って達成していく。
それは会社が社長の方針の下、利益や顧客の満足を追求するようなところと似ています。

会社では人間関係が重要で、コミュニケーションの良し悪しが、業績を左右するということも多々あります。

劇団でも人間関係は重要で、いい人間関係の劇団は、いい芝居を作ることができると思います。
もちろん、その他にもいろいろな要因はありますが、私は、一番大きな要素だと思っています。
企業は人なり、といいますが、芝居を作るとは、正に人そのものです。

ある役者さんが初めて芝居に参加したときの事です。
その人はいったい自分がどのようにして演技をしていいのか、みんなと一緒にこの舞台を成功させるためには、どうしたらいいのかわからずに居ました。

劇団には、いろいろな人が居ますが、基本みんな優しいです。
その人をバックアップするため、へこまないようにするためにいろいろと気を使ってくれました。

ある人は、立ち回り方やしぐさ、演技のポイントを教えてくれたり、ある人は、みんなのなかに溶け込めるように休憩の時間などにその人に話を振って場を盛り上げたりしていました。

人は、仲間に溶け込めて、自分の役目の要領をつかむとちゃんと力を発揮するんですね。無事に、その舞台は、幕を下ろすことができました。

趣味は、人を、人生を豊かにすると言われます。
仕事や家庭やいろいろなストレス、重圧から疲れを忘れさせてくれるのかな、と思います。
普段使っている脳の部分を休め、使っていない脳を刺激されるというイメージです。

そして、時には、普段の生活（仕事や家庭）と融合し新たな喜びを生むこともあります。

私にとっては、そのひとつが演劇ですが、皆さんもゴルフ、釣り、野球観戦、陶芸、園芸…いろいろな趣味をお持ちだと思います。
それらを通して、日々の生活が楽しくなっていけたらいいですねえ。

私は、そう思います。

『仕事の活力剤』

4階病棟 澤谷 海美子

私は旅行に行くのが大好きです。

日本にも美しい場所が沢山ありますが旅行をするのであれば海外旅行を選びたい方です。

今年は3月下旬から4月上旬までドイツに行ってきました。

4階のスタッフの方には大変御迷惑をお掛けしたと思います。

本当に感謝しております。

私の海外に出掛ける目的がいくつかあります。

一つは仕事をするための活力剤になります。私の場合、旅行を目標とし一年頑張る事ができます。

二つ目は、新しい風を自分の中に吹かせる為です。

ずっと同じ場所にいると、同じ考えや見方になるので自分の中に新しい風として、違う人の考え、見方、生活の中での知恵など色々感じて吸収して行くことです。

そうして、良いものは自らの生活に取り込みます。

三つ目は、なるべく日本人の少ない所に行きたいと思っています。

自分の小ささを知る機会になります。

知らない人に助けられたり、困っている時に助けられるといつも以上に有り難く感じる事が出来ます。

感謝する心を感じたら自らもチャレンジしたくなります。

そんなことを感じながら私は一人で旅をした訳ですが、ドイツは陸続きの土地でいつもは、コピーだけ持ち歩きますが、今回は毎回パスポートを持たなければならない面倒な生活でした。

スイスの国境の近くに友達の家があり、必ず税関を通る為です。

ちなみに、飼い犬にもパスポートみたいなものがあるそうです。

そんな友達の家でずっと居るのも飽きてきたので一人でフラクフルトまで旅行をしました。



街それぞれに教会があり、鐘がガンゴン至る所から聞こえたため、時計はそれ程見た記憶がありません。

ウルムという街に行き161.53メートルの塔にのぼりドナウ川をみて、汽車に乗ったのはよかったのですが、居眠りをして、知らない街に降り、迷い迷って二時間、とうとう勇気を振り絞り、駅はどこですか？と聞いて、ジェスチャーで教えて貰ったり…やはり英語は出来ないとダメだと痛感させられ、そうして優しくしてくれたおばあちゃんに両手で握手をしてダンケシェーンと挨拶をして駅に向かうことが出来ました。

駅に行く途中で市電のレールで転んだおばあちゃんを助けたりもしました。海外は自分を見直す機会を与えてくれるものと私は感じています。話したいことは山ほどありますが、書ききれないので…

写真はウルムの塔からみた町並み、もう一つは連れて行ってもらった古城跡。宮崎駿監督のラピュタを思い出させる風景でした。



社会の出来事

旭川市

- 7月20日 丸井今井 旭川店 閉店
- 8月10日 2年振りの大相撲 旭川場所 開催
- 8月28日 女子柔道63キロ級 上野順恵選手が世界選手権 全試合一本勝ちで優勝
- 9月27日 第1回 旭川ハーフマラソン 開催
- 10月07日 旭川赤十字病院を基地病院に「ドクターヘリ」の運用スタート。
- 11月11日 平和通商店街・銀座商店街にて
地域の情報を発信するコンシェルジュサービスを開始。

北海道

- 4月01日 ホッカイドウ競馬の運営を公社所在地を日高町の門別競馬場に移転。
- 5月26日 プロボクシングの内藤が5度目の防衛に成功。
日本人の世界戦最年長防衛記録を34歳8カ月に更新。
- 6月11日 聴覚障害偽装による障害年金詐取事件で、
道警が詐欺容疑などで札幌の医師や社労士ら4人を逮捕。
- 10月06日 プロ野球、パシフィック・リーグの
北海道日本ハムファイターズが、2年ぶり3度目のリーグ優勝。
- 10月10日 道産米の新ブランド「ゆめぴりか」デビュー

日本

- 4月28日 豚インフルエンザ起源の『新型インフルエンザの発生』宣言
- 5月21日 「裁判員制度」施行
- 6月01日 「改正薬事法」施行
旧・薬種商資格の廃止に伴い、登録販売者の資格施行。
- 7月08日 「水俣病被害者救済法」成立
- 7月13日 「改正臓器移植法」成立
- 7月08日 酒井法子容疑者、覚せい剤所持で逮捕。
- 9月13日 イチロー選手が大リーグ史上初の9年連続200安打
- 9月16日 衆議院議員、民主党代表の鳩山由紀夫が
第93代内閣総理大臣に任命され、鳩山由紀夫内閣が成立。
- 11月01日 太陽光発電の余剰電力を電力会社が10年間すべて買い取る制度が開始
- 11月10日 リンゼイ・アン・ホーカーさん殺害事件の被疑者「市橋達也」身柄確保
- 1月01日 「日本年金機構」発足
- 2月04日 大相撲の横綱 朝青龍関（29）引退
石垣島で日本最古となる2万年前の人骨発見。
- 3月31日 日本電信電話（NTT）、Lモードサービスを終了。

世界

- 5月25日 朝鮮民主主義人民共和国、2006年に続き2度目の核実験実施
- 6月01日 アメリカ自動車最大手GMが連邦破産法11条適用申請、
負債総額16兆4000億円。
- 6月11日 世界保健機関（WHO）が、新型インフルエンザの警戒水準を
「フェーズ6」へと引き上げ、パンデミック（世界的大流行）宣言。
- 6月25日 アメリカ合衆国の歌手、
マイケル・ジャクソンが自宅で心肺停止状態となり逝去。
- 10月22日 マイクロソフトのオペレーティングシステム最新版
「Windows 7」が発売開始。
- 1月04日 ドバイに世界一の超高層ビル、ブルジュ・ハリファがオープン。

編集後記

ついに2回目に突入した病院年報の季節(汗)

昔からホームページやブログなどで文章を書く事には慣れているものの、この至ってマジメな文章の連続や読者からの反応が見えない(と言うか読んで貰えているのか分からない?)環境下での編集業務は、意外と根気のいる作業だな・・・と若干凹みながらの完成となりました。

周りからは暑さのせいだよ。と優しい(?)言葉を頂きつつ、出来上がってみると達成感と開放感の素晴らしいこと素晴らしいこと。

と同時に、来年も病院年報に振り回される自分の姿が目に見えなくなってしまいました。。。

さて、平成21年10月から始まった「介護職員処遇改善交付金」制度。介護の資格を所有している自分としては、その給付金にのみ羨ましさを感じる内容ですが、実際に介護職員の離職率は他職種の比では無く、業務内容に対する賃金の少なさから特に男性職員などでは定着しづらいのが現状です。

当院はいち早く「介護職員処遇改善交付金」の申請を済ませ、関係者に分配すると言った対応をしており、周りからすれば自画自賛の様ですが、素晴らしい事だと感じております。

まだ世間では、看護が“上”で、介護が“下”と思われがちな世の中ですが、同じ医療チームの一員として、胸をはって対等に患者さん・利用者さんと向き合える職場であって欲しいと願っております。

事務部 八幡 竜次

平成21年度 旭川高砂台病院 年報
発行年月日 平成22年7月31日